

古代城柵の城内竪穴建物

－志波城内竪穴建物の集成とその性格の検討－

盛岡市遺跡の学び館 津嶋 知弘

〔 キーワード ： 古代城柵 竪穴建物 カマド 煙道 周溝 支柱穴 鎮兵 〕

1. はじめに

志波城（しわじょう）は、平安時代初頭、延暦 22 年(803)に当時の中央政府であった律令国家によって造営された、古代陸奥国最北端・最大級の城柵である。征夷大將軍であった坂上田村麻呂（さかのうえのたむらまろ）が造営の指揮をとり、一辺 840m 四方の外郭築地塀と五間一戸の外郭南門、60m 間隔の櫓などが建設された。また、外郭築地線のさらに外側に一辺約 930m 四方の土塁を伴う外大溝を巡らし、城内中央には一辺 150m 四方を築地塀で囲んだ政庁を配置、その内外に多くの掘立柱建物が整然と建ち並んでいた。また、外郭築地塀の内側約 100m の帯状の範囲に多くの竪穴建物が確認されており、志波城跡の大きな特徴のひとつとなっている。

遺跡としての志波城跡は、昭和 59 年(1984)に国指定史跡となり、盛岡市による重要地区の土地買い上げと復元整備により平成 9 年(1997)より「志波城古代公園」として公開されている。外郭築地塀、外郭南門、櫓、政庁築地塀、政庁南門・東西門、官衙（かんが）建物が当時の手法で宮大工の手により復元され、中心施設であった政庁正殿・脇殿も 3DGC で復元検討を行い映像展示されている。

盛岡市では、平成 23 年度から志波城跡の第Ⅲ期整備に着手し、史跡への入り口となる総合ガイダンス棟の整備とともに、外郭南辺沿いの竪穴建物の復元展示の計画を進めている。その設計検討の一段階として、これまで発掘調査が行われた城内竪穴建物跡の集成を行い、その考古学的調査成果と近年の文献史学研究の成果から、その性格の検討を行った。本稿は、その集成と検討経過をまとめたものである。なお、検討過程においては、盛岡市教育委員会が設置

している「志波城跡史跡整備委員会（委員長：田中哲雄）」の山中敏史委員（奈良文化財研究所名誉研究員，考古学），黒坂貴裕委員（奈良文化財研究所都城発掘調査部，日本建築史）の指導を受けた。また、平成 25 年 9 月 27 日に開催された「第 28 回志波城跡史跡整備委員会」において、本内容の報告を行っている。



復元された政庁(上)と官衙建物(下)

2. 志波城内の竪穴建物集成

志波城跡では、昭和 51・52 年（1976・77）の岩手県教育委員会による東北自動車道建設に伴う発掘調査（第 1・2 次調査）以降、県埋蔵文化財センター、盛岡市教育委員会による調査を合わせ、城内で計 91 棟

の竪穴建物の精査を行っている（検出のみで保存されている多数の竪穴建物は今回の検討対象外とした）。これらは大きく、政庁周辺の竪穴建物群と、外郭内側沿いに約 100m幅で建ち並ぶ竪穴建物群に分けられ、前者（10 棟）は 803 年前後の「造志波城所」関連のもの、後者（81 棟）は鎮兵駐屯兵舎と想定してきた（津嶋 2013）。また、資料集成の都合上、外郭内竪穴建物群は、南辺中央（8 棟）・東部（4 棟）・西部（14 棟）、東辺中央（11 棟）、西辺南部（11 棟）・中央（22 棟）・北部（11 棟）に区分した。集成では、平面図・断面図・主要または特徴的な出土遺物を掲載し、上屋構造を支える柱と考えられる支柱穴を着色した。集成図集は後段に添付のとおりである。



志波城跡の構造



外郭南辺内側の竪穴建物跡



古代の兵士復元像
(福島県文化財センター白河館まほろん)



竪穴建物出土の鉄製武具・工具・農具

3. 外郭内竪穴建物群の考古学的検討の視点

上記の集成図集をもとに、その主要な特徴をまとめたものが「城内竪穴建物跡一覧表」であるが、以下では鎮兵駐屯兵舎と想定してきた外郭内竪穴建物群に限定して、検討を進める。

■構造的分類項目の視点と各分類の出現頻度

A カマド煙道構造

A 1－短煙道：所謂「関東型」と呼ばれるもので、カマドの奥壁が急な角度で立ち上がり、煙出しとなるもの。

A 2－スロープ状長煙道：「関東型」の変形と考えられ、カマドの奥壁が緩やかにスロープ状に長く延び、その先に煙出し状のピットがあるもの。

A 3－溝状・トンネル状長煙道：所謂「在地型」と呼ばれる東北地方に多いもので、奥壁がなくその先が溝状、または割り抜いてトンネル状になり、先端に煙出しピットが付くもの。カマド火床面より煙道先端が低くなるものもある。

煙道構造がわかる 106 基のカマドにおける各分類の出現頻度をみると、A 1 と A 2 で約 60%、A 3 が約 40%となっている。後述するように、大同元年（806）以前は、鎮兵はその発足以来東国の坂東諸国徴発であったが、陸奥国内（福島・宮城）徴発に制度変更されたようであり、A 1・A 2 カマドの竪穴建物は坂東諸国鎮兵の築いた兵舎（803～806 年）、A 3 カマドの竪穴建物は陸奥国南部鎮兵の築いた兵舎（806～812 年）と推定される。同一の竪穴建物のカマド作り替えて A 1・A 2 と A 3 が混在するものがあることについては、鎮兵の制度変更がある程度の移行期間をもって進められたことを示すものと解釈できる。

B カマド設置辺

B 1－長辺側：長辺の辺長が長くカマドが左右に偏在すればカマド設置辺も出入口の可能性あり

B 2－短辺側：カマド設置辺以外が出入口となる

B 3－長短辺同値：全くの方形、辺長が長くカマドが左右に偏在すればカマド辺も出入口の可能性あり

103 基のカマドにおける各分類の出現頻度をみると、B 1 が約 50%、B 2 が約 45%、B 3 が約 5%であり、規則性は認められない。外郭内竪穴建物の中に明確に出入口を示す施設等が発見されているものがないために検討を行った。関東地方の調査例では、カマド設置辺の対辺に出入口施設が発見されるようであるが、それらにおけるカマド設置辺との関係性の類例については、今後の検討事項としたい。

C カマド位置

C 1－辺左に偏在 C 2－辺右に偏在 C 3－辺中央

106 基のカマドにおける各分類の出現頻度をみると、C 1 が約 40%、C 2 が約 40%、C 3 が約 20%であり、辺の左右どちらかにカマドが偏在する竪穴建物が多数を占めるものの、左右の偏在に規則性はない。

D 床面周溝

D 1－全周・ほぼ全周：竪穴建物内部全周に板材により側壁を設けるもの。

D 2－一部のみ：一部に板材により側壁または土留めを設けるもの。

D 3－なし：板材による側壁なし

106 棟（1つの平面プランにカマドの作り替えがある場合は各カマドごと 1 棟とカウント）における各分

類の出現頻度をみると、D 1 が約 15%、D 2 が約 9%、D 3 が約 76%であり、堅穴内部に側壁を設けないものが 3/4 を超える。

E 主柱穴

E 1－4 本：入母屋屋根タイプ（4 本柱に梁桁を渡し、その上に棟木を設置）

E 2－2 本・3 本：切妻屋根タイプ（2 本または 3 本柱で棟木を水平に設置）

E 3－1 本：片切妻屋根タイプ（1 本柱で棟木を斜めに設置、棟木の片方は周堤に固定）

E 4－0 本：片切妻の室（むろ）タイプ、または扱首（さず）構造の寄棟タイプ（扱首を周堤に固定）

106 棟における各分類の出現頻度をみると、E 1 が約 8%、E 2 が約 15%、E 3 が約 17%、E 4 が約 60%であり、主柱穴を持たないものが半数以上である。

■構造的分類項目の各分類の組み合わせ類型の出現頻度

カマド煙道構造の分類を起点に、各分類の組合せ類型の出現頻度をカウントした。

計 67 類型が抽出されたが、出現頻度 1 棟が 47 類型（70.1%）、2 棟が 10 類型（14.9%）、3 棟が 5 類型（7.5%）、4 棟が 2 類型（3.0%）、5 棟が 2 類型（3.0%）6 棟が 1 類型（1.5%）である。出現頻度が上位である 4 棟以上ある類型は以下のとおり。

- ・ 6 棟 A3-B1-C1-D3-E4
〔溝状・トンネル状長煙道／長辺にカマド／カマドが辺左に偏在／周溝なし／主柱穴 0 本〕
- ・ 5 棟 A1-B1-C1-D3-E4
〔短煙道／長辺にカマド／カマドが辺左に偏在／周溝なし／主柱穴 0 本〕
A3-B1-C2-D3-E4
〔溝状・トンネル状長煙道／長辺にカマド／カマドが辺右に偏在／周溝なし／主柱穴 0 本〕
- ・ 4 棟 A1-B2-C1-D3-E4
〔短煙道／短辺にカマド／カマドが辺左に偏在／周溝なし／主柱穴 0 本〕
A3-B2-C3-D3-E4
〔溝状・トンネル状長煙道／短辺にカマド／カマドが辺中央／周溝なし／主柱穴 0 本〕

上記 5 類型で計 24 棟あり、全 106 棟の 22.6%にあたる。

4. 外郭内堅穴建物跡出土遺物からみた城内「鎮兵」

志波城跡においては、外郭区画施設からの出土遺物が非常に少ないのと対照的に、外郭内堅穴建物跡からは、多くの貴重な遺物が出土している。以下では、各出土遺物についてその性格や意義を検討し、それらを使用していた城内「鎮兵」の生活と役割を考察する。

① 須恵器・あかやき土器坏、甕

鎮兵の食事・炊事用品であり、陸奥国内の官営窯で製作されたものが配給されていたと考えられる。

あかやき土器坏については、9 世紀中葉以降のもの（所謂「須恵系土器」「土師質土器」とは異なり、酸化炎焼成を意識したというより、不完全な還元炎焼成で軟質に焼成された「不良品」といえる。

② 須恵器高台付埴・稜埴・盤・蓋・盃・円面硯

官衙遺跡でよく出土する役人向けの特等用品と言える。志波城内では、役人の勤務する政庁周辺の官衙域と、鎮兵の駐屯する兵舎域は、堀や溝などの区画施設こそないもののエリアが明確に区分さ

れており、これらが自然に兵舎域に混入することはないであろう。とすれば、鎮兵の一部が役人の実務補助を行うため配給されたか、不用品をもらい受けたものである可能性が考えられる。

③ ロクロ土師器坏(内黒)、土師器長胴甕

鎮兵の食事・炊事用品であり、須恵器坏・甕とセットで使用されている。伝統的な酸化炎焼成品（非窯製品）であり、須恵器製品を補うものとして陸奥国南部から律令政府ルートで調達されたものと考えられる。土師器長胴甕は組成比率が高く炊事に日常的に使用されていたと考えられるが、内黒ロクロ土師器坏の組成比率は低く、補助的な使用が想定される。

④ 土師器坏(非ロクロ)、土師器球胴甕

出土点数は限られるものの、外郭内堅穴住居跡に確実に相伴するものと考えられる。8世紀後葉から9世紀前葉の志波城跡周辺（「斯波郡」北部）の古代集落では一般的に使用されていたものと考えている（津嶋 2013）。土師器球胴甕については、一般的に赤彩されることが多く、エミシの血を引く陸奥国南部徴発鎮兵が祭祀用品として在地蝦夷ルートで調達したものと想定される。

⑤ 鉄製武具・馬具、有孔砥石

鎮兵の戦闘用装備品であり、特に鉄鏃は数種類の形状ものが多数出土していることから、城柵における主武装が弓矢であったことがわかる。馬具としては轡が出土している。「砥石」については、刃物を研ぐという実用道具としての役割のほか、古墳時代以来「武人」を象徴するモノという位置付けが与えられていたようであり（川田 2008）、「令義解」軍防令 17 に、兵士が自前で用意する装備の一つとされている。志波城跡出土の有孔砥石を実見した川田壽文氏（東京都埋蔵文化財センター）によれば、そのほとんどの石材が近世まで東国一円で広く流通した群馬県南牧町砥沢で採掘された「砥沢砥」（川田 2004）であること、形状が実用性とは離れ定型的となり腰に下げる装飾品となっている、との御教示を受けた。類似資料は、出羽国秋田城でも出土が確認できるとのことである（川田 2013）。よって、群馬県（東国）産石材の有孔砥石は、坂東諸国徴発の鎮兵が従軍していた直接的な物証といえる。このような装備品のあり方からすると、鎮兵も軍団兵士に準じた武装を持つ「戦闘兵」であったことがわかる。

⑥ 鉄製工具・農具、製鉄・小鍛冶関連遺物

武具である鉄鏃に次いで多く出土するのが、工具である刀子・鉄斧、農具である鉄鎌である。堅穴建物の一部の床面には焼土とともに鉄滓が確認され、フイゴ羽口も出土していることから、堅穴建物を工房として小鍛冶（鉄製品の加工・修理）を行っていたことがわかる。このような出土品からすると、鎮兵に「工兵」の役割も大きかったことが推定される。

⑦ 銅製埴・金具

出土点数は少ないが、銅製品の存在が特徴的であり、仏教祭祀用品（仏具）の可能性もある。城柵の政庁では都の宮中と同様に年中行事が行われていたと考えられ、鎮兵の一部が役人の補助としてそれらに参加していたことが推定される。

以上、外郭内堅穴建物群出土遺物の検討からみる、志波城鎮兵の性格は、

「戦闘兵＋工兵＋役人実務等補助」

といったところであろうか。より具体的には、

- 志波城及び交通路（陸路・水路）の警備、蝦夷集団の偵察 — 「戦闘兵」的役割
- 志波城の造営作業・補修作業、武具等装備品の整備・補充、物資調達 — 「工兵」的役割

●官衙実務雑用従事、祭祀雑用従事 — 「役人実務等補助」的役割
などが考えられる。

5. 文献史学研究からみた「鎮兵」

律令国家の古代東北における軍制については、鈴木拓也氏の諸研究が詳しく、以下、鈴木 1998 をもとに「鎮兵」に係る近年の文献史学研究の成果を要約する。

■「軍団兵士」と「鎮兵」の基本的理解

鈴木拓也氏は、「古代陸奥出羽両国の軍制は、令制の軍団兵士制と令外の制である鎮兵制との二本立てであった点に大きな特徴がある」と述べている。その違いは以下のとおり。

〔軍団兵士〕

当土の公民から徴発され、軍団ごとにいくつかの番に分かれて交替で城柵を守衛する「番上の兵」

〔鎮兵〕

主に東国から徴発され、公粮の支給を受けながら長期にわたって城柵を守衛する「長上の兵」

そして、「胆沢城と徳丹城の前身である志波城には、当初から鎮兵が重点的に配備されて」おり、「鎮守府を胆沢城へ移転させた当初の目的も、北方の城柵を鎮兵で守衛することにあった」としている。

■陸奥国鎮兵制の変遷と律令国家の東北政策

9世紀初頭、志波城に駐屯していたとされる「鎮兵」について、その変遷と律令国家の政策の変化を確認する。以下、要点を箇条書きにて整理し、記述する。

鎮兵制の変遷の年代

〔Ⅰ期〕 神亀元年(724)頃～天平十八年(746)

〔Ⅱ期〕 天平宝字元年(757)～神護景雲三年(769)

〔Ⅲ期〕 宝亀五年(774)～弘仁六年(815) ← ※志波城期（9世紀初頭）はⅢ期に該当

I期：神亀元年(724)頃～天平十八年(746)

「鎮守府＝鎮兵体制」の創設

『続日本紀』神亀元年(724)二月乙卯条「陸奥国鎮守軍卒」

天平元年(729)八月癸亥条「陸奥鎮守兵」

天平九年(737)四月戊午条「鎮兵」—陸奥出羽直路開削記事

○陸奥国一国で蝦夷支配の遂行をある程度可能にする政策の一環として創設され、また新陸奥国府「多賀城」や黒川以北十郡の玉造等諸柵の造営事業を行うために必要とされた。

○規模：天平九年(737)の陸奥出羽直路開削で大野東人に率いられた鎮兵は499人

○形態：『続日本紀』神亀元年(724)二月条「父母・妻子を率ゐ、共に生業を同じくせん」

・「柵戸」と同じように家族ともども移住し、屯田兵の形態をとっていた。

・官道の開拓であったため、要所に入植を行い、その維持を図る必要性があったのでは？

↓

天平十八年(746)に鎮兵を全廃，軍団兵士を増員

背景：多賀城等の国家的施設（城柵）の造営の完了，蝦夷の反乱の鎮静化，柵戸移配による陸奥国公民の増加

Ⅱ期－天平宝字元年(757)～神護景雲三年(769)

鎮兵制の復活 →人員確保のため同時期に「東国防人」を停止（西海道七国の軍団兵士で代替）

『続日本紀』天平宝字二年（758）十二月丙午条，天平宝字三年(759) 9月己丑条

〔内容〕鎮兵を桃生城・雄勝城の造営に使役する（後の伊治城造営も同様と推察される）

○律令国家の支配領域を，黒川以北十郡を越えて拡大させる新たな積極策（藤原仲麻呂の政策）

○規模：当初から 3000 人程度

－『続日本紀』神護景雲二年（768）九月壬辰条，三年（769）正月己亥条より

○形態：「不幸・不恭・不友・不順」の者を移配

・Ⅰ期鎮兵の屯田兵形態とは異なり，東国出身者個人の労働力が期待された

↓

神護景雲二年～三年（768～769）に鎮兵 3000 余人を 500 余人まで減員，軍団兵士 4000 人を点加

背景：伊治城の完成，鎮兵糧の財政的負担が過重

Ⅲ期－宝亀五年(774)～弘仁六年(815)

鎮兵の増員から「健士制」への移行

『類聚国史』卷八四弘仁元年（810）五月辛亥条－「鎮兵三千八百人」

○宝亀五年（774）に始まる恒常的な戦闘状態（「38 年戦争」）に対応するため，再度鎮兵を増員

○規模：4000 人程度－『類聚国史』卷八四弘仁元年（810）五月辛亥条

○形態：東国の軍団兵士－『続日本紀』宝亀六年（775）十月癸酉条

「相模 武蔵 上野 下野四国兵士」を鎮兵として発遣

大同元年（806）頃からは陸奥国内徴発（東国の負担軽減のため）

↓

弘仁三年（812）に鎮兵 3800 人を 1000 人に減員，軍団兵士 2000 人とする

内容：胆沢城・徳丹城（ともに鎮守府配下）に鎮兵を各 500 人配置

多賀城・玉造塞（ともに国府配下）に名取団・玉造団の軍団兵士 2000 人が交代で上番

↓

弘仁六年（815）に鎮兵を全て廃止，軍団兵士を 6000 人に増員し，健士 2000 人を新規配置

内容：軍団兵士は六番交替で一番 1000 人，健士は四番交替で一番 500 人，計一番 1500 人

胆沢城－軍団兵士 400 人・健士 300 人

玉造塞－軍団兵士 100 人・健士 200 人

多賀城－軍団兵士 500 人

〔健 士〕

陸奥国内の勲位者から武芸に優れた者を選抜。一回の勤務日数 30 日（軍団兵士は 10 日），90 日の上番勤務が義務。課役と夫妻の田租が免除，上番の間は公糧が支給される。鎮守府所属。

6 まとめ ―志波城跡外郭内竪穴建物の性格と鎮兵―

- 近年の文献研究成果より、志波城には当初から「鎮兵」が重点的に配備されていたと考えられる。
- 志波城期（9世紀初頭）の鎮兵は「Ⅲ期鎮兵」に該当し、東国（坂東諸国）より徴発された長上の軍団兵士により編成（鎮兵が屯田兵形態をとるのは8世紀前半の「Ⅰ期鎮兵」のみと考えられ、家族の同伴はないと推定）。ただし、大同元年（806）以降は陸奥国内（福島・宮城）徴発の軍団兵士に制度変更されたと考えられている。
- 弘仁三年（812）の記録を参考とすれば、志波城末期でも鎮兵 1900 人程度（陸奥国鎮兵総数の半分）が配備されていたと推察できる。
- 志波城跡周辺の集落遺跡には、志波城期に鎮兵（在地蝦夷集団以外の武装集団）が居住していたことを示す施設等がみられないことから、そのほとんどが志波城内に駐屯していたと推定され、竪穴建物は「兵舎」と考えられる。
- 文献によると、軍団兵士の編成の最少単位は兵士 5 人の「一伍」であり、二伍 10 人を「一火」として「火長」をおき、一火ごとに必要な戎具（じゅうぐ）などを自弁することとなっていた。鎮守府所属の鎮兵の編成も、これらに準じていたと考えられる。
- 上記から単純に考えれば、最小単位一伍（5 人）＝一兵舎（竪穴建物）とも想定できるが、各鎮兵の個人装備や生活用具を置くスペースも必要であることから、一伍（5 人）＝二兵舎（竪穴建物）、一火（10 人）＝四兵舎（竪穴建物）くらいが単位となっていたのではないかと推察される。当初の志波城配備鎮兵総数を 2000 人とする、一時期に必要な兵舎（竪穴建物）数は 800 棟。発掘調査成果から城内に約 1100～2200 棟の竪穴建物跡があることがわかっており（津嶋 2004）、志波城存続期間が約 10 年であったことを考慮すると、竪穴建物の耐久年数が 3～5 年、10 年間で一・二回の建て替え（2～3 期変遷）があったと推察される。

【引用参考文献】

- 国史大辞典編集委員会編 1996 『国史大辞典（第五刷）』吉川弘文館
- 川田壽文 2004 「砥礪考―附 日本産砥石地名一覧表―」『白門考古論叢』稻生典太郎先生追悼考古学論集
- 川田壽文 2008 「砥礪考 2 ―古墳出土砥石集成―」
『白門考古論叢』Ⅱ 中央大学考古学研究会創設 40 周年記念論文集
- 川田壽文 2013 「砥礪考 3 ―古代の砥石―」
『白門考古論叢』Ⅲ 中央大学考古学研究会創設 45 周年記念論文集
- 鈴木拓也 1998 『古代東北の支配構造』吉川弘文館
- 津嶋知弘 2004 「志波城と蝦夷社会」『古代蝦夷と律令国家』蝦夷研究会編 高志書院
- 津嶋知弘 2013 「古代「斯波(志波)」郡北部の土器群変遷(その 1)―零石川南岸所在遺跡の盛岡市教育委員会発掘調査資料を中心に―」盛岡市遺跡の学び館学芸レポート vol.2 (盛岡市ホームページ)

志波城跡城内竪穴建物跡一覧表(1)

城内位置		次数	遺構名	一辺長 (m)	平面規模	カマド 作替	カマド(煙道) 方向	カマド 煙道(A)	カマド 設置辺(B)	カマド 位置(C)	周溝 (D)	主・副柱穴数(本) (E)	特徴的遺物
政庁周辺 「進志波城所」 関連	政庁外南東	36	SI426	7.3 × 7.4	大型	1期	東	短煙道	長辺	辺中央	なし	主4(中央＋副16)	鉄鏝・須惠器棧埴・盤
		38	SI427	3.4 × 3.6	中型	1期	南	短煙道	長辺	辺中央	なし	0	刀子・環状鉄製品
		38	SI431	2.3 × 2.4	小型	1期	東	短煙道	長辺	辺中央	なし	0	
		38	SI429	3.4 × 5.1	中型(長方形)	1期	東	短煙道	長辺	辺右	なし	1	
		38	SI430a	4.3 × 4.9	中型	3期	東(新)	短煙道	長短辺	辺右	なし	0	鉄鏝・刀子・須惠器棧埴・蓋・墨書「厨」
			SI430b				東(古1)	短煙道	長短辺	辺右			
			SI430c				東(古2)	短煙道	長短辺	辺右			
		38	SI428a	4.1 × 4.4	中型	4期	東(新)	短煙道	長辺	辺右	なし	0	鉄鏝・刀子・須惠器長頸瓶
			SI428b				東(古1)	短煙道	長辺	辺右			
			SI428c				西(古2)	短煙道	長辺	辺左			
		SI428d				北(古3)	スロー・ナ状長煙道	短辺	辺中央				
	政庁外南西	97	SI459a	6.4 × 6.2	大型	2期	東(新)	溝状長煙道	短辺	辺左	全周周溝	主2(南北中線西寄り)	鉄鏝・須惠器蓋・墨書「答」「万」
			SI459b				東(古)	溝状長煙道?	短辺	辺右			
	政庁外西	92	SI458	2.8 × 2.8	小型	1期	北東	溝状長煙道	長短辺	辺中央	なし	0	非ロクロ土師器坏
	政庁外北西	34	SI425	3.9 × 3.8	中型	1期	南西	長煙道	短辺	辺中央	なし	0	非ロクロ土師器坏・鉄釘・銅柄・銅製金具

志波城跡城内竪穴建物跡一覧表(3)

城内位置	次数	遺構名	一辺長 (m)	平面規模	カマド 作替	カマド(煙道) 方向	カマド 煙道(A)	カマド 設置辺(B)	カマド 位置(C)	周溝 (D)	主・副柱穴数(本) (E)	特徴的遺物
外部内南辺 西部	21	SI374	3.1 × 2.8	小型	1期	西	短煙道	短辺	辺左	なし	0	鉄鏃・刀子・鉄斧、土師器埴輪壺
	21	SI380	3.0 × 2.9	小型	1期	東	短煙道	短辺	辺右	なし	0	
	21	SI383a	4.2 × 4.8	中型	2期	南(新)	溝状長煙道	短辺	辺左	なし	0	鉄鏃・刀子、土師器埴輪壺
		SI383b				北(古)	短煙道	短辺	辺中央			
	21	SI375a	3.3 × 3.4	中型	2期	南(新)	溝状長煙道	短辺	辺左	なし	0	
		SI375b				東(古)	短煙道	長辺	辺左			
	21	SI373a	4.4 × 4.5	中型	2期	南(新)	スローノ状長煙道	長辺	辺左	全周周溝	0	鉄鏃、須惠器高台付埴
		SI373b				東(古)	短煙道	短辺	辺右			
	21	SI381a	4.1 × 4.0	中型	2期	東(新)	スローノ状長煙道	短辺	辺中央	なし	0	須惠器高台付埴
		SI381b				東(古)	短煙道	短辺	辺右			
	21	SI377	2.7 × 2.6	小型	1期	東	スローノ状長煙道	長辺	辺右	なし	0	鉄鏃
	21	SI378	4.8 × 4.8	中型	1期	東	溝状長煙道	長短辺	辺右	なし	主4(南寄り)	須惠器長頸瓶、石製紡錘車
	21	SI379	3.0 × 2.6	小型	1期	南	溝状長煙道	短辺	辺中央	なし	0	須惠器蓋
	1・2	SI259(59号)a	3.8 × 3.8	中型	2期	南(新)	短煙道	長短辺	辺左	全周周溝	主2(東西中線上)	須惠器蓋
		SI259(59号)b				北(古)	溝状長煙道	長短辺	辺右			
	1・2	SI256(56号)a	6.0 × 6.3	大型	2期	東(新)	溝状長煙道	長辺	辺右	ほぼ全周周溝	主4(南寄り)	鉄鏃・鉄斧・鉄製紡錘車、土鏃、須惠器高台付埴・盆・蓋・円面硯
		SI256(56号)b				東(古)	溝状長煙道	長辺	辺中央			
	1・2	SI257(57号)a	5.7 × 5.8	大型	2期	南(新)	溝状長煙道	長辺	辺中央	全周周溝	主2(東西中線北寄り)	
		SI257(57号)b				東(古)	溝状長煙道	短辺	辺左		主2(南北中線西寄り)	
	1・2	SI258(58号)a	3.7 × 4.2	中型	2期	東(新)	溝状長煙道	長辺	辺左	なし	0	須惠器双耳杯
		SI258(58号)b				西(古)	溝状長煙道	長辺	辺左			
城内位置	次数	遺構名	一辺長 (m)	平面規模	カマド 作替	カマド(煙道) 方向	カマド 煙道(A)	カマド 設置辺(B)	カマド 位置(C)	周溝 (D)	主・副柱穴数(本) (E)	特徴的遺物
外部内西辺 南部	1・2	SI248(48号)	3.0 × 3.4	中型	1期	東	短煙道	長辺	辺中央	一部周溝	0	有孔砥石、環状鉄製品、土師器埴輪壺
	1・2	SI251(51号)	3.9 × 2.8	中型(長方形)	1期	東	短煙道	短辺	辺左	なし	1	刀子・鉄釘・環状鉄製品、土師器丸底壺
	1・2	SI252(52号)	2.5? × 3.1	小型	1期	東	短煙道	長辺	辺左	なし	主2(東西中線上)	
	1・2	SI242(42号)	3.1 × 3.2	中型	1期	東	トンネル状長煙道	長辺	辺左	なし	0	
	1・2	SI243(43号)	3.0 × 4.2	中型	1期	南	溝状長煙道	長辺	辺左	なし	0	
	1・2	SI260(50号)	2.7 × 2.6	小型	1期	南東	スローノ状長煙道	短辺	辺中央	なし	0	刀子、フイゴ羽口
	1・2	SI253(53号)	3.6 × 3.5	中型	1期	東	溝状長煙道	短辺	辺中央	なし	0	刀子、須惠器蓋
	1・2	SI254(54号)	4.1 × 4.5	中型	1期	東	スローノ状長煙道	長辺	辺右	なし	主2(南北中線東寄り)・副1	フイゴ羽口、須惠器高台付埴・長頸瓶、土師器埴輪壺
	1・2	SI247(47号)	2.9 × 2.8	小型	1期	南東	トンネル状長煙道	短辺	辺右	なし	1	鉄鏃、フイゴ羽口、土師器埴輪壺、墨書「本」
	1・2	SI255(55号)	4.0 × 3.6	中型	1期	北	スローノ状長煙道	短辺	辺右	ほぼ全周周溝	0	
	1・2	SI246(46号)a	5.8 × 4.6	大型(長方形)	2期	東(新)	溝状長煙道	短辺	辺左	なし	主2(東西中線北寄り)・副8?	製鉄炉壁、フイゴ羽口、土鏃、須惠器蓋
		SI246(46号)b	6.3 × 6.9	大型		南(古)	スローノ状長煙道	長辺	辺右	一部周溝	主4(中央)・副6?	

志波城跡城内竪穴建物跡一覧表(4)

城内位置	次数	遺構名	一辺長 (m)	平面規模	カマド 作替	カマド(煙道) 方向	カマド 煙道(A)	カマド 設置辺(B)	カマド 位置(C)	周溝 (D)	主・副柱穴数(本) (E)	特徴的遺物
外部内西辺 中央	1・2	SI241(41号)	3.2 × 3.9	中型	1期	北	短煙道	長辺	辺右	なし	主2(東西中線北寄り)	須惠器蓋、筒状土器
	1・2	SI215(15号)	3.0 × 3.0	中型	1期	北東	短煙道	長短辺	辺中央	なし	0	鉄鏝、須惠器盆・蓋
	1・2	SI218(18号)	3.3 × 3.2	中型	1期	東	短煙道	短辺	辺右	なし	1	槽子状鉄製品
	1・2	SI223(23号)	2.3 × 2.2	小型	1期	東	短煙道	短辺	辺左	なし	1	須惠器高台付埴・蓋、土師器球胴壺
	1・2	SI239(39号)	4.2 × 3.5	中型	1期	東	短煙道	短辺	辺左	なし	0	鉄鏝・環状鉄製品、須惠器高台付埴・盤・蓋
	1・2	SI221(21号)	3.0 × 3.1	中型	1期	南	短煙道	長辺	辺左	なし	0	
	1・2	SI224(24号)	2.6 × 3.9	中型(長方形)	1期	南	短煙道	長辺	辺左	なし	2(東西中線上)＋副1	環状鉄製品、有孔底石
	1・2	SI240(40号)	3.4 × 3.4	中型	1期	南	短煙道	長短辺	辺右	ほぼ全周囲溝	0	鉄鏝、須惠器蓋
	1・2	SI219(19号)	5.0 × 4.8	中型	1期	西	スロー・フ状長煙道	短辺	辺左	周溝あり	0(竪穴外4＋2?)	直刀、須惠器高台付埴
	1・2	SI227(27号)	3.0 × 3.1	中型	1期	北	溝状長煙道	長辺	辺右	なし	主2(西辺上)＋副1	須惠器高台付埴
	1・2	SI214(14号)	3.7 × 3.6	中型	1期	東	スロー・フ状長煙道	短辺	辺左	なし	0	
	1・2	SI220(20号)	3.2 × 2.9	中型	1期	東	スロー・フ状長煙道	短辺	辺左	ほぼ全周囲溝	0	槽子状鉄製品、須惠器蓋
	1・2	SI233(33号)	4.0 × 3.6	中型	1期	東	スロー・フ状長煙道	短辺	辺左	なし	主3(東西中線上)	須惠器高台付埴・蓋
	1・2	SI235(35号)	5.1 × 5.3	大型	1期	東	スロー・フ状長煙道	長辺	辺左	ほぼ全周囲溝	主2(南辺上)＋副1	
	1・2	SI236(36号)	3.4 × 3.2	中型	1期	東	スロー・フ状長煙道	短辺	辺右	なし	0	槽子状鉄製品、あかやき土器丸底壺(北陸型壺)
	1・2	SI226(26号)	3.6 × 3.2	中型	1期	南東	溝状長煙道	短辺	辺右	なし	主2(北西-南東中線上)	鉄鏝、須惠器高台付埴・盤・蓋
	1・2	SI216(16号)	3.6 × 3.7	中型	1期	南	スロー・フ状長煙道	長辺	辺右	なし	0(竪穴外4)	須惠器蓋、土師器球胴壺
	1・2	SI232(32号)a	3.6 × 3.8	中型	2期	西(古)	スロー・フ状長煙道	長辺	辺左	なし	主4(北東寄り)＋副2	須惠器高台付埴・蓋
	1・2	SI229(29号)b	3.6 × 5.1	中型(長方形)	2期	北(新)	スロー・フ状長煙道	長辺	辺中央	なし	0	須惠器盆・高台付埴・蓋
	1・2	SI222(22号)a	4.0 × 4.0	中型	2期	東(新)	溝状長煙道	長短辺	辺右	一部周溝	0	土師器球胴壺
	1・2	SI222(22号)b	3.5 × 3.4	中型	2期	南東(新)	溝状長煙道	短辺	辺右	なし	0	須惠器高台付埴、非ロウ口土師器坏
城内位置	1・2	SI217(17号)a	2.5 × 2.4	小型	2期	南東(古)	短煙道	短辺	辺左	なし	0	環状鉄製品、須惠器高台付埴・蓋・長頸瓶
	1・2	SI225(25号)a	3.8 × 2.8	中型(長方形)	2期	北東(古)	スロー・フ状長煙道	短辺	辺右	なし	0	
外部内西辺 北部	1・2	SI212(12号)	2.8 × 3.1	小型	1期	西	短煙道	長辺	辺右	なし	0	須惠器高台付埴・蓋、非ロウ口土師器坏
	1・2	SI202(2号)	3.9 × 4.6	中型	1期	北	短煙道	長辺	辺右	ほぼ全周囲溝	1	鉄鏝、墨書「厨」
	1・2	SI207(7号)	5.1 × 5.2	大型	1期	東	短煙道	長辺	辺右	なし	主4(中央)	須惠器高台付埴、土師器球胴壺
	1・2	SI208(8号)	3.7 × 3.3	中型	1期	東	短煙道	長辺	辺右	なし	主3(東西中線上)	刀子・鉄製轆、須惠器盆・高台付埴・盤・蓋、墨書「天蓋」
	1・2	SI203(3号)	4.1 × 3.8	中型	1期	東	短煙道	短辺	辺左	なし	0	
	1・2	SI211(11号)	2.7 × 3.4?	中型(長方形)	1期	東	短煙道	長辺	辺左	なし	0	鉄鏝・刀子、須惠器高台付埴、墨書「上総口」
	1・2	SI209(9号)	3.2 × 3.6	中型	1期	東	短煙道?	長辺	辺右	なし	0	須惠器高台付埴
	1・2	SI204(4号)	2.8 × 3.3	中型	1期	北	溝状長煙道	長辺	辺中央	なし	0	須惠器高台付埴
	1・2	SI206(5号)	2.3 × 3.2	小型(長方形)	1期	南東	スロー・フ状長煙道	長辺	辺右	なし	0	鉄鏝・刀子、須惠器盆・高台付埴、土師器球胴壺
	1・2	SI210(10号)a	3.4 × 4.6	中型(長方形)	2期	南(新)	短煙道	長辺	辺左	なし	0	刀子・鉄斧・環状鉄製品、有孔底石、須惠器盆・高台付埴・蓋
	1・2	SI210(10号)b		中型	2期	東(新)	短煙道	短辺	辺中央	なし		須惠器高台付埴・長頸瓶、土師器球胴壺
	1・2	SI205(5号)a	3.2 × 3.2	中型	2期	北東(新)	スロー・フ状長煙道	長短辺	辺左	なし	主2(北東-南西中線上)	
	1・2	SI205(5号)b		中型	2期	南東(古)	スロー・フ状長煙道	長短辺	辺中央	なし		

志波城跡外郭内竪穴建物跡 構造の分類(1)

城内位置	次数	遺構名	カマド煙道			カマド設置辺			カマド位置			床面周溝			主柱穴				組合せ分類
			A1	A2	A3	B1	B2	B3	C1	C2	C3	D1	D2	D3	E1	E2	E3	E4	
外郭内南辺 中央	49	SI437	○				○				○		○					○	A1-B2-C3-D2-E4
	49	SI432	○			○			○					○				○	A1-B1-C1-D3-E4
	49	SI433			○	○					○			○				○	A3-B1-C3-D3-E4
	23	SI389	○				○				○		○					○	A1-B2-C2-D1-E3
	23	SI387a			○	○					○			○		○			A3-B1-C2-D2-E1
	23	SI387b	○				○				○			○		○			A1-B2-C3-D2-E1
	23	SI386			○	○			○					○				○	A3-B1-C1-D3-E4
	49	SI440			○		○			○				○				○	A3-B2-C2-D3-E4
	49	SI434			○		○				○			○				○	A3-B2-C3-D3-E4
	49	SI438a			○	○				○				○				○	A3-B1-C2-D2-E4
	49	SI438b			○	○					○			○				○	A3-B1-C3-D2-E4
	49	SI438c			○		○			○				○				○	A3-B2-C2-D2-E4
	49	SI439a			○	○			○					○				○	A3-B1-C1-D3-E4
	49	SI439b			○	○				○				○				○	A3-B1-C2-D3-E4
	49	SI385a			○	○				○				○				○	A3-B1-C2-D3-E4
	49	SI385b			○	○				○				○				○	A3-B1-C2-D3-E4
城内位置	次数	遺構名	カマド煙道			カマド設置辺			カマド位置			床面周溝			主柱穴				組合せ分類
			A1	A2	A3	B1	B2	B3	C1	C2	C3	D1	D2	D3	E1	E2	E3	E4	
外郭内南辺 東部	23	SI394	○			○			○					○			○		A1-B1-C1-D3-E3
	23	SI391		○			○		○					○			○		A2-B2-C1-D3-E3
	23	SI392a			○		○			○				○				○	A3-B2-C2-D3-E4
	23	SI392b			○		○				○			○				○	A3-B2-C3-D3-E4
	23	SI393		○			○		○			○					○		A2-B2-C1-D1-E3
城内位置	次数	遺構名	カマド煙道			カマド設置辺			カマド位置			床面周溝			主柱穴				組合せ分類
			A1	A2	A3	B1	B2	B3	C1	C2	C3	D1	D2	D3	E1	E2	E3	E4	
外郭内東辺 中央	23	SI397	○			○			○					○			○		A1-B1-C1-D3-E3
	23	SI396	○			○			○					○			○		A1-B1-C1-D3-E3
	23	SI415	○			○				○				○			○		A1-B1-C2-D3-E3
	23	SI416a	○				○				○			○				○	A1-B2-C3-D3-E4
	23	SI416b		○		○			○					○				○	A2-B1-C1-D3-E4
	23	SI413a		○		○					○			○			○		A2-B1-C3-D3-E3
	23	SI413b		○			○			○				○			○		A2-B2-C2-D3-E3
	23	SI414a			○	○				○				○			○		A3-B1-C2-D3-E3
	23	SI414b			○		○				○			○			○		A3-B2-C3-D3-E3
	23	SI414c			○		○		○					○			○		A3-B2-C1-D3-E3
	23	SI395			○		○		○					○				○	A3-B2-C1-D3-E4
	23	SI412			○	○				○				○			○		A3-B1-C2-D3-E3

志波城跡外郭内竪穴建物跡 構造の分類(2)

城内位置	次数	遺構名	カマド煙道			カマド設置辺			カマド位置			床面周溝			主柱穴				組合せ分類
			A1	A2	A3	B1	B2	B3	C1	C2	C3	D1	D2	D3	E1	E2	E3	E4	
外郭内南辺 西部	21	SI374	○				○		○					○				○	A1-B2-C1-D3-E4
	21	SI380	○				○			○				○				○	A1-B2-C2-D3-E4
	21	SI383a			○		○		○					○				○	A3-B2-C1-D3-E4
	21	SI383b	○				○				○			○				○	A1-B2-C3-D3-E4
	21	SI375a			○		○		○					○				○	A3-B2-C1-D3-E4
	21	SI375b	○			○			○					○				○	A1-B1-C1-D3-E4
	21	SI373a		○		○			○			○						○	A2-B1-C1-D1-E4
	21	SI373b	○				○			○		○						○	A1-B2-C2-D1-E4
	21	SI381a		○			○				○			○				○	A2-B2-C3-D3-E4
	21	SI381b	○				○			○				○				○	A1-B2-C2-D3-E4
	21	SI377		○		○				○				○				○	A2-B1-C2-D3-E4
	21	SI378			○			○		○				○	○				A3-B3-C2-D3-E1
	21	SI379			○		○				○			○				○	A3-B2-C3-D3-E4
	1・2	SI259(59号)a	○					○	○			○				○			A1-B3-C1-D1-E2
	1・2	SI259(59号)b			○			○		○		○				○			A3-B3-C2-D1-E2
	1・2	SI256(56号)a			○	○				○		○			○				A3-B1-C2-D1-E1
	1・2	SI256(56号)b			○	○					○	○			○				A3-B1-C3-D1-E1
	1・2	SI257(57号)a			○	○					○	○				○			A3-B1-C3-D1-E2
	1・2	SI257(57号)b			○		○		○			○				○			A3-B2-C1-D1-E2
	1・2	SI258(58号)a			○	○			○					○				○	A3-B1-C1-D3-E4
	1・2	SI258(58号)b			○	○			○					○				○	A3-B1-C1-D3-E4
城内位置	次数	遺構名	カマド煙道			カマド設置辺			カマド位置			床面周溝			主柱穴				組合せ分類
			A1	A2	A3	B1	B2	B3	C1	C2	C3	D1	D2	D3	E1	E2	E3	E4	
外郭内西辺 南部	1・2	SI248(48号)	○			○					○		○					○	A1-B1-C3-D2-E4
	1・2	SI251(51号)	○				○		○					○			○		A1-B2-C1-D3-E3
	1・2	SI252(52号)	○			○			○					○		○			A1-B1-C1-D3-E2
	1・2	SI242(42号)			○	○			○					○				○	A3-B1-C1-D3-E4
	1・2	SI243(43号)			○	○			○					○				○	A3-B1-C1-D3-E4
	1・2	SI250(50号)		○			○				○			○				○	A2-B2-C3-D3-E4
	1・2	SI253(53号)			○		○				○			○				○	A3-B2-C3-D3-E4
	1・2	SI254(54号)		○		○				○				○		○			A2-B1-C2-D3-E2
	1・2	SI247(47号)			○		○			○				○			○		A3-B2-C2-D3-E3
	1・2	SI255(55号)		○			○			○		○						○	A2-B2-C2-D1-E4
	1・2	SI246(46号)a			○		○		○					○		○			A3-B2-C1-D3-E2
	1・2	SI246(46号)b		○		○				○			○		○				A2-B1-C2-D2-E1

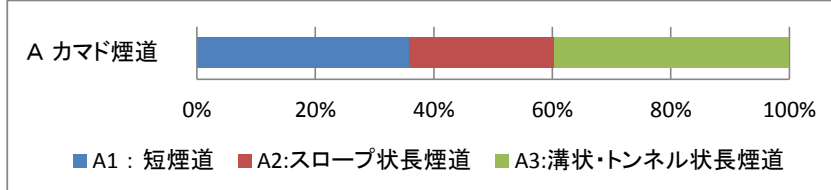
志波城跡外郭内竪穴建物跡 構造の分類(3)

城内位置	次数	遺構名	カマド煙道			カマド設置辺			カマド位置			床面周溝			主柱穴				組合せ分類
			A1	A2	A3	B1	B2	B3	C1	C2	C3	D1	D2	D3	E1	E2	E3	E4	
外郭内西辺 中央	1・2	SI241(41号)	○			○				○				○		○			A1-B1-C2-D3-E2
	1・2	SI215(15号)	○					○			○			○				○	A1-B3-C3-D3-E4
	1・2	SI218(18号)	○				○			○				○			○		A1-B2-C2-D3-E3
	1・2	SI223(23号)	○				○		○					○			○		A1-B2-C1-D3-E3
	1・2	SI239(39号)	○				○		○					○				○	A1-B2-C1-D3-E4
	1・2	SI221(21号)	○			○			○					○				○	A1-B1-C1-D3-E4
	1・2	SI224(24号)	○			○			○					○		○			A1-B1-C1-D3-E2
	1・2	SI240(40号)	○					○		○		○						○	A1-B3-C2-D1-E4
	1・2	SI219(19号)		○			○		○			○						○	A2-B2-C1-D1-E4
	1・2	SI227(27号)			○	○				○				○		○			A3-B1-C2-D3-E2
	1・2	SI214(14号)		○			○		○					○				○	A2-B2-C1-D3-E4
	1・2	SI220(20号)		○			○		○			○						○	A2-B2-C1-D1-E4
	1・2	SI233(33号)		○			○		○					○		○			A2-B2-C1-D3-E2
	1・2	SI235(35号)		○		○			○			○				○			A2-B1-C1-D1-E2
	1・2	SI236(36号)		○			○			○				○				○	A2-B2-C2-D3-E4
	1・2	SI226(26号)			○		○			○				○		○			A3-B2-C2-D3-E2
	1・2	SI216(16号)		○		○				○				○				○	A2-B1-C2-D3-E4
	1・2	SI232(32号)a		○		○				○				○	○				A2-B1-C2-D3-E1
	1・2	SI232(32号)b		○			○		○					○	○				A2-B2-C1-D3-E1
	1・2	SI229(29号)a		○		○					○			○				○	A2-B1-C3-D3-E4
	1・2	SI229(29号)b			○	○				○				○				○	A3-B1-C2-D3-E4
	1・2	SI222(22号)a			○			○	○				○					○	A3-B3-C1-D2-E4
	1・2	SI222(22号)b	○					○		○			○					○	A1-B3-C2-D2-E4
	1・2	SI217(17号)a			○		○			○				○				○	A3-B2-C2-D3-E4
	1・2	SI217(17号)b	○				○		○					○				○	A1-B2-C1-D3-E4
	1・2	SI225(25号)a		○			○		○					○				○	A2-B2-C1-D3-E4
	1・2	SI225(25号)b			○	○				○				○				○	A3-B1-C2-D3-E4
城内位置	次数	遺構名	カマド煙道			カマド設置辺			カマド位置			床面周溝			主柱穴				組合せ分類
			A1	A2	A3	B1	B2	B3	C1	C2	C3	D1	D2	D3	E1	E2	E3	E4	
外郭内西辺 北部	1・2	SI212(12号)	○			○				○				○				○	A1-B1-C2-D3-E4
	1・2	SI202(2号)	○			○				○		○					○		A1-B1-C2-D1-E3
	1・2	SI207(7号)	○			○				○				○	○				A1-B1-C2-D3-E1
	1・2	SI208(8号)	○			○				○				○		○			A1-B1-C2-D3-E2
	1・2	SI203(3号)	○				○		○					○				○	A1-B2-C1-D3-E4
	1・2	SI211(11号)	○			○			○					○				○	A1-B1-C1-D3-E4
	1・2	SI209(9号)	○			○				○				○				○	A1-B1-C2-D3-E4
	1・2	SI204(4号)			○	○					○			○				○	A3-B1-C3-D3-E4
	1・2	SI206(5号)		○		○				○				○				○	A2-B1-C2-D3-E4
	1・2	SI210(10号)a	○			○			○					○				○	A1-B1-C1-D3-E4
	1・2	SI210(10号)b	○				○				○			○				○	A1-B2-C3-D3-E4
	1・2	SI205(5号)a		○				○	○					○		○			A2-B3-C1-D3-E2
	1・2	SI205(5号)b		○				○			○			○		○			A2-B3-C3-D3-E2
			カマド煙道			カマド設置辺			カマド位置			床面周溝			主柱穴				
			A1	A2	A3	B1	B2	B3	C1	C2	C3	D1	D2	D3	E1	E2	E3	E4	
合計			38	26	42	51	46	9	42	42	22	16	10	80	9	16	18	63	

志波城跡外郭内竪穴建物跡 構造的分類の出現頻度

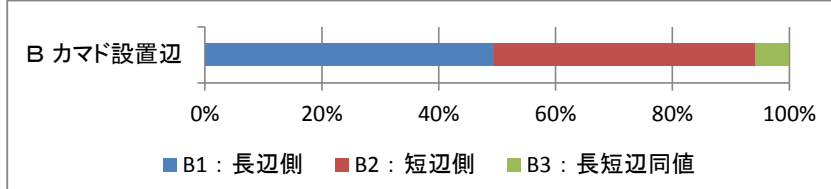
A カマド煙道

A1：短煙道	38
A2：スロープ状長煙道	26
A3：溝状・トンネル状長煙道	42



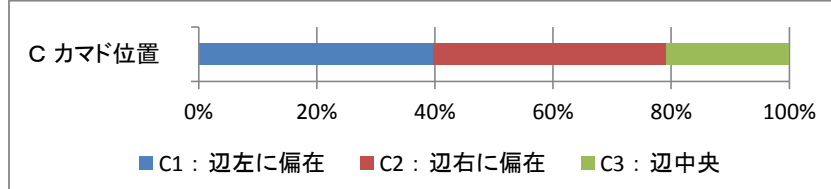
B カマド設置辺

B1：長辺側	51
B2：短辺側	46
B3：長短辺同値	6



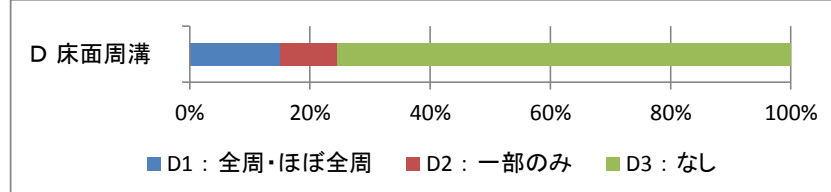
C カマド位置

C1：辺左に偏在	42
C2：辺右に偏在	42
C3：辺中央	22



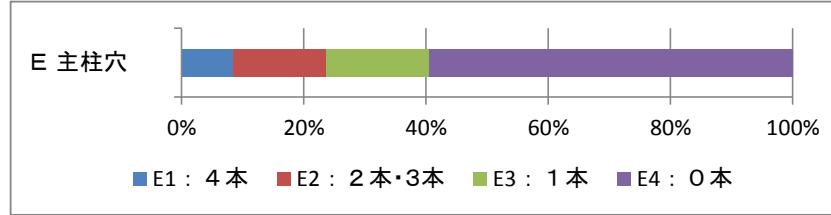
D 床面周溝

D1：全周・ほぼ全周	16
D2：一部のみ	10
D3：なし	80



E 主柱穴

E1：4本	9
E2：2本・3本	16
E3：1本	18
E4：0本	63



志波城跡外郭内竪穴建物跡 構造的分類の組合せ類型

A 1 短煙道

A1-B1-C1-D3-E2	2
A1-B1-C1-D3-E3	3
A1-B1-C1-D3-E4	5
A1-B1-C2-D1-E3	1
A1-B1-C2-D3-E1	1
A1-B1-C2-D3-E2	2
A1-B1-C2-D3-E3	1
A1-B1-C2-D3-E4	2
A1-B1-C3-D2-E4	1
A1-B2-C1-D3-E3	2
A1-B2-C1-D3-E4	4
A1-B2-C2-D1-E3	1
A1-B2-C2-D1-E4	1
A1-B2-C2-D3-E3	1
A1-B2-C2-D3-E4	3
A1-B2-C3-D2-E1	1
A1-B2-C3-D2-E4	1
A1-B2-C3-D3-E4	2
A1-B3-C1-D1-E2	1
A1-B3-C2-D1-E4	1
A1-B3-C2-D2-E4	1
A1-B3-C3-D3-E4	1

A 2 スロープ状長煙道

A2-B1-C1-D1-E2	1
A2-B1-C1-D1-E4	1
A2-B1-C1-D3-E4	1
A2-B1-C2-D2-E1	1
A2-B1-C2-D3-E1	1
A2-B1-C2-D3-E2	1
A2-B1-C2-D3-E4	3
A2-B1-C3-D3-E3	1
A2-B1-C3-D3-E4	1
A2-B2-C1-D1-E3	1
A2-B2-C1-D1-E4	2
A2-B2-C1-D3-E1	1
A2-B2-C1-D3-E2	1
A2-B2-C1-D3-E3	1
A2-B2-C1-D3-E4	2
A2-B2-C2-D1-E4	1
A2-B2-C2-D3-E3	1
A2-B2-C2-D3-E4	1
A2-B2-C3-D3-E4	2
A2-B3-C1-D3-E2	1
A2-B3-C3-D3-E2	1

A 3 溝状・トンネル状長煙道

A3-B1-C1-D3-E4	6
A3-B1-C2-D1-E1	1
A3-B1-C2-D2-E1	1
A3-B1-C2-D2-E4	1
A3-B1-C2-D3-E2	1
A3-B1-C2-D3-E3	2
A3-B1-C2-D3-E4	5
A3-B1-C3-D1-E1	1
A3-B1-C3-D1-E1	1
A3-B1-C3-D2-E4	1
A3-B1-C3-D3-E4	2
A3-B2-C1-D1-E2	1
A3-B2-C1-D3-E2	1
A3-B2-C1-D3-E3	1
A3-B2-C1-D3-E4	3
A3-B2-C2-D2-E4	1
A3-B2-C2-D3-E2	1
A3-B2-C2-D3-E3	1
A3-B2-C2-D3-E4	3
A3-B2-C3-D3-E3	1
A3-B2-C3-D3-E4	4
A3-B3-C1-D2-E4	1
A3-B3-C2-D1-E2	1
A3-B3-C2-D3-E1	1

古代城柵「志波城跡」〔803～811 年〕

城内竪穴建物跡集成

【「造志波城所」 関連】

■ 政庁周辺 10 棟〔市教委〕

【鎮兵駐屯兵舎】

■ 外郭内南辺中央 8 棟〔市教委〕

■ 外郭内南辺東部 4 棟〔市教委〕

■ 外郭内東辺中央 11 棟〔市教委〕

■ 外郭内南辺西部 14 棟〔県埋文・県教委〕

■ 外郭内西辺南部 11 棟〔県教委〕

■ 外郭内西辺中央 22 棟〔県教委〕

■ 外郭内西辺北部 11 棟〔県教委〕

【例 言】

1. 各竪穴建物平面図・断面図の縮尺は 1/100 で統一している。
2. 各竪穴建物出土遺物実測図の縮尺は 1/6 で統一している。
3. 土器は、須恵器、土師器(ロクロ、非ロクロ)、あかやき土器(ロクロ使用で還元炎焼成されていないもの)に分類し、各土器下に記載した。
4. 本集成図に使用した報告書は以下のとおり。

〈岩手県教育委員会, 岩手県埋蔵文化財センター〉

岩手県教育委員会(1982.3)『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅷ

—太田方八丁遺跡(志波城跡)—』〔報告書第 68 集〕

岩手県埋蔵文化財センター(1982.10)『志波城跡発掘調査報告書

—太田地区県営圃場整備事業関係発掘調査—』〔報告書第 45 集〕

〈盛岡市教育委員会〉

盛岡市教育委員会(1982)『志波城跡—昭和 56 年度発掘調査概報—』(18～20・23・24 次)

盛岡市教育委員会(1985)『志波城跡—昭和 59 年度発掘調査概報—』(31～34 次)

盛岡市教育委員会(1986)『志波城跡—昭和 60 年度発掘調査概報—』(35・36 次)

盛岡市教育委員会(1988)『志波城跡—昭和 62 年度発掘調査概報—』(38～41 次)

盛岡市教育委員会(1990)『志波城跡—平成元年度発掘調査概報—』(48～49 次)

盛岡市教育委員会(2003)『志波城跡—平成 11～14 年度発掘調査概報—』(85～93 次)

盛岡市教育委員会(2005)『志波城跡—平成 15・16 年度発掘調査概報—』(94～97 次)

盛岡市教育委員会(2011)『志波城跡—平成 20・21・22 年度発掘調査概報—』(101～104 次)

【図版目次】

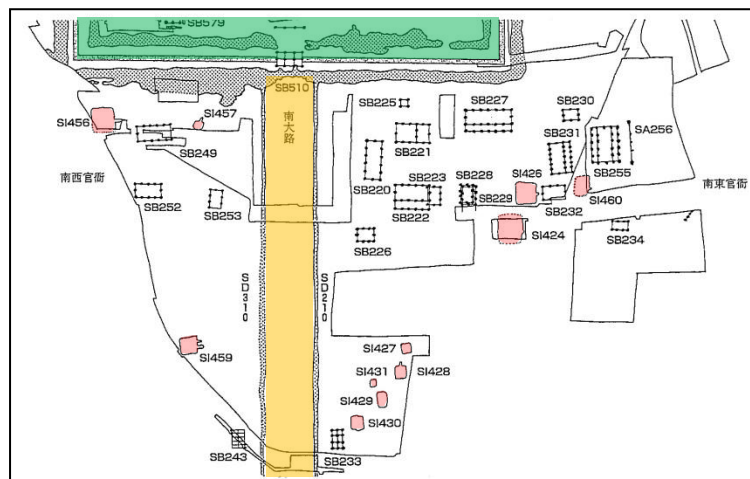
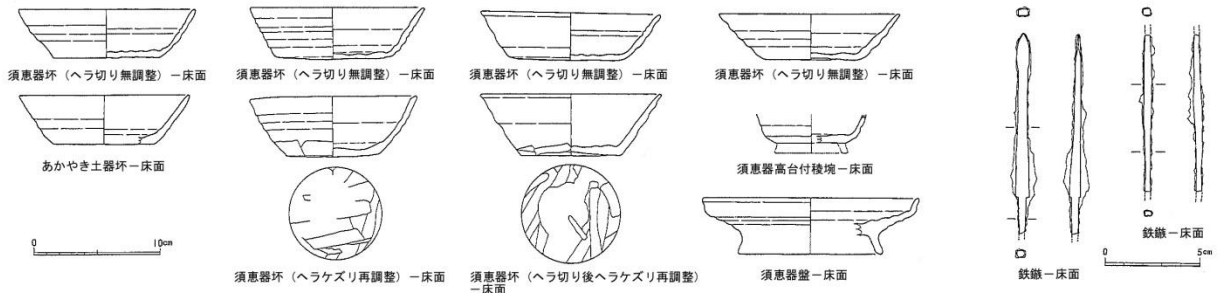
- 第 001 図 志波城跡政庁周辺「造志波城所」関連【803 年頃】(1) SI426〔第 36 次(S60, 市教委 1986)〕
- 第 002 図 志波城跡 政庁周辺「造志波城所」関連【803 年頃】(2)
SI427・SI431・SI429・SI430・SI428〔第 38 次(S62, 市教委 1988)〕
- 第 003 図 志波城跡 政庁周辺「造志波城所」関連【803 年頃】(3)
SI459〔第 97 次(H16, 市教委 2005)〕, SI458〔第 92 次(H14, 市教委 2003)〕,
SI460〔第 102 次(H20, 市教委 2011)〕, SI425〔第 34 次(S59, 市教委 1985)〕
- 第 101 図 志波城跡 外郭内南辺中央【803～811 年】(1) SI437・SI432・SI433〔第 49 次(H1), 市教委 1990〕
- 第 102 図 志波城跡 外郭内南辺中央【803～811 年】(2) SI389・SI387〔第 23 次(S56), 市教委 1982〕
- 第 103 図 志波城跡 外郭内南辺中央【803～811 年】(3)
SI386〔第 23 次(S56), 市教委 1982〕, SI440・SI434〔第 49 次(H1), 市教委 1990〕
- 第 104 図 志波城跡 外郭内南辺中央【803～811 年】(4) SI438・SI439・SI385〔第 49 次(H1), 市教委 1990〕
- 第 200 図 志波城跡 外郭内南辺東部, 外郭内東辺中央部 位置図
- 第 201 図 志波城跡 外郭内南辺東部【803～811 年】(1)
SI394・SI391・SI392・SI393〔第 23 次(S56), 市教委 1982〕
- 第 202 図 志波城跡 外郭内東辺中央【803～811 年】(1)
SI397・SI396・SI415・SI416〔第 23 次(S56), 市教委 1982〕
- 第 203 図 志波城跡 外郭内東辺中央【803～811 年】(2)
SI413・SI414・SI395・SI412〔第 23 次(S56), 市教委 1982〕
- 第 300 図 志波城跡 外郭内南辺西部, 外郭内西辺南部・中央・北部 位置図
- 第 301 図 志波城跡 外郭内南辺西部【803～811 年】(1)
SI374・SI380・SI383・SI375〔第 21 次(S56), 県埋文 1982(第 45 集)〕
- 第 302 図 志波城跡 外郭内南辺西部【803～811 年】(2)
SI373・SI381・SI377〔第 21 次(S56), 県埋文 1982(第 45 集)〕
- 第 303 図 志波城跡 外郭内南辺西部【803～811 年】(3)
SI378・SI379〔第 21 次(S56), 県埋文 1982(第 45 集)〕,
SI259・SI260〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕
- 第 304 図 志波城跡 外郭内南辺西部【803～811 年】(4)
SI256・SI257・SI258〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕
- 第 305 図 志波城跡 外郭内西辺南部【803～811 年】(1)
SI248・SI251・SI252・SI243・SI242〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕
- 第 306 図 志波城跡 外郭内西辺南部【803～811 年】(2)
SI250・SI253・SI254・SI247・SI255〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕
- 第 307 図 志波城跡 外郭内西辺南部【803～811 年】(3) SI246〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕
- 第 308 図 志波城跡 外郭内西辺中央【803～811 年】(1)
SI241・SI215・SI218・SI223〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕
- 第 309 図 志波城跡 外郭内西辺中央【803～811 年】(2)
SI239・SI221・SI224・SI240〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕

- 第 310 図 志波城跡 外郭内西辺中央【803～811 年】(3)
SI219・SI227〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕
- 第 311 図 志波城跡 外郭内西辺中央【803～811 年】(4)
SI214・SI220・SI233・SI235〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕
- 第 312 図 志波城跡 外郭内西辺中央【803～811 年】(5)
SI236・SI226・SI216〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕
- 第 313 図 志波城跡 外郭内西辺中央【803～811 年】(6)
SI232・SI229〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕
- 第 314 図 志波城跡 外郭内西辺中央【803～811 年】(7)
SI222・SI217・SI225〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕
- 第 315 図 志波城跡 外郭内西辺北部【803～811 年】(1)
SI212・SI207・SI202〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕
- 第 316 図 志波城跡 外郭内西辺北部【803～811 年】(2)
SI208・SI203・SI211〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕
- 第 317 図 志波城跡 外郭内西辺北部【803～811 年】(3)
SI209・SI204・SI206〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕
- 第 318 図 志波城跡 外郭内西辺北部【803～811 年】(4)
SI210・SI205〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕



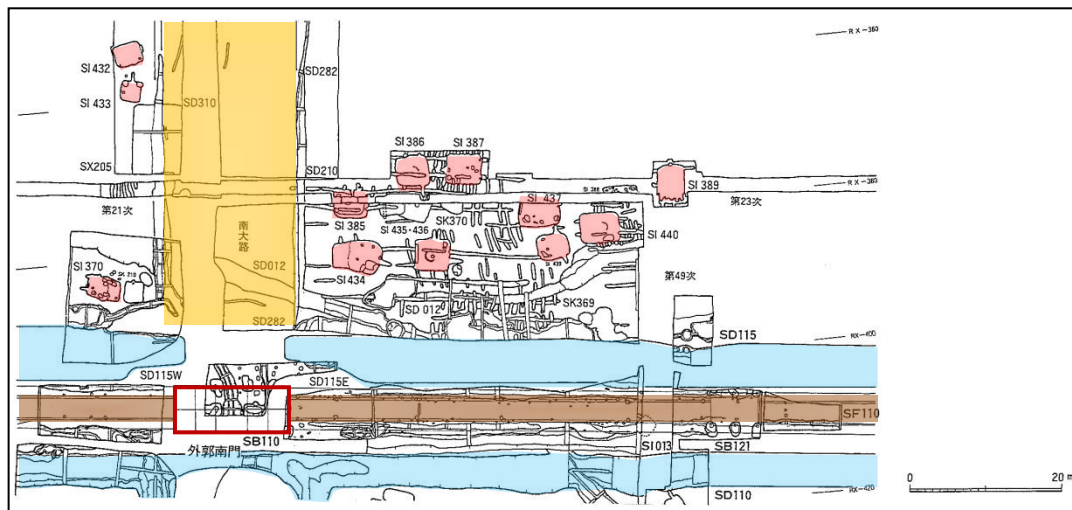
志波城古代公園マスコットキャラクター しわまろくん

SI426

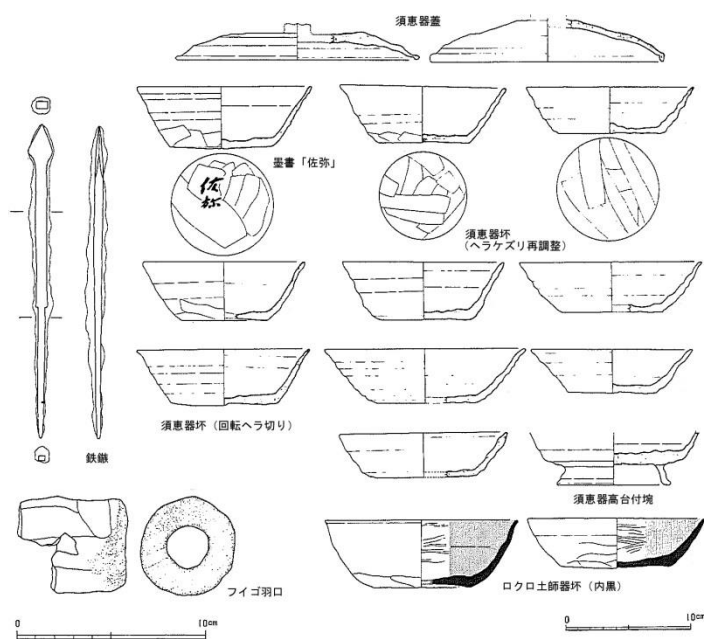
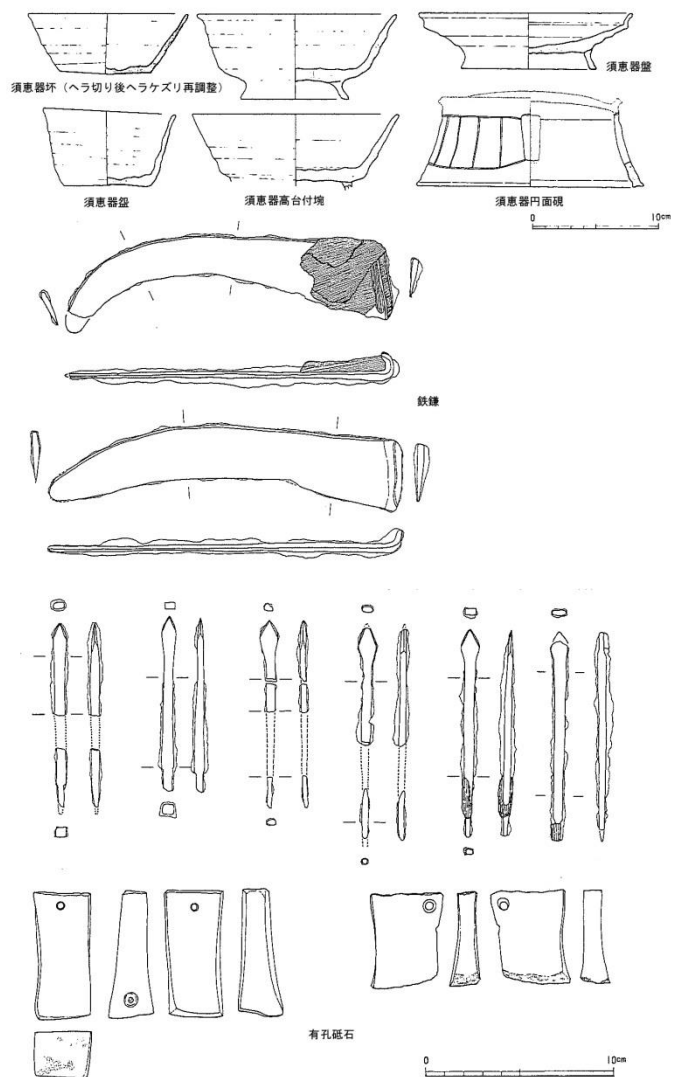
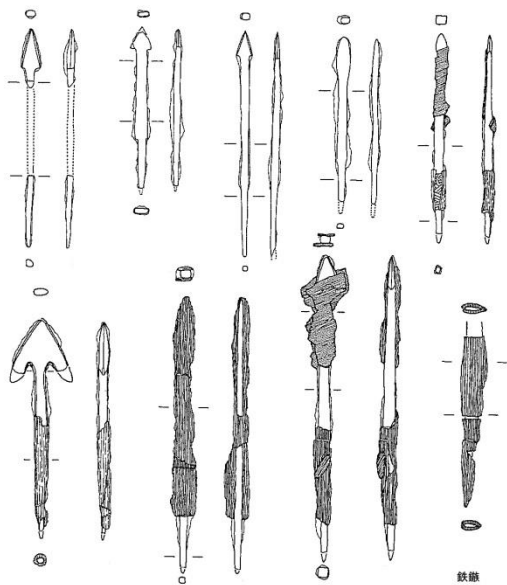


第 001 図 志波城跡 政庁周辺「造志波城所」関連【803 年頃】(1)

SI426〔第 36 次(S60, 市教委 1986)〕

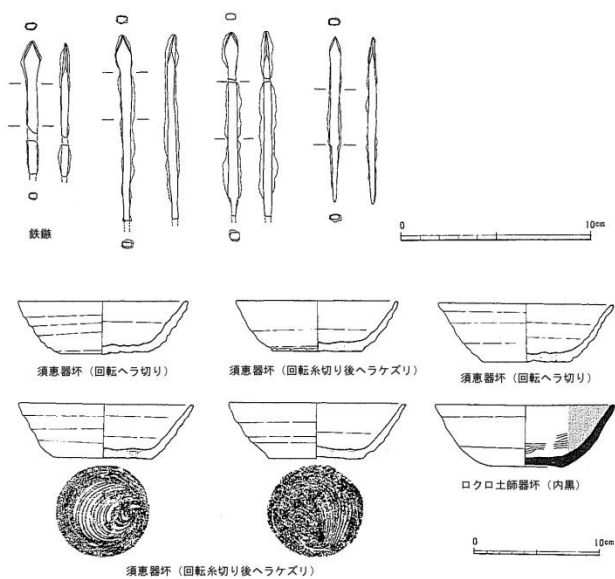
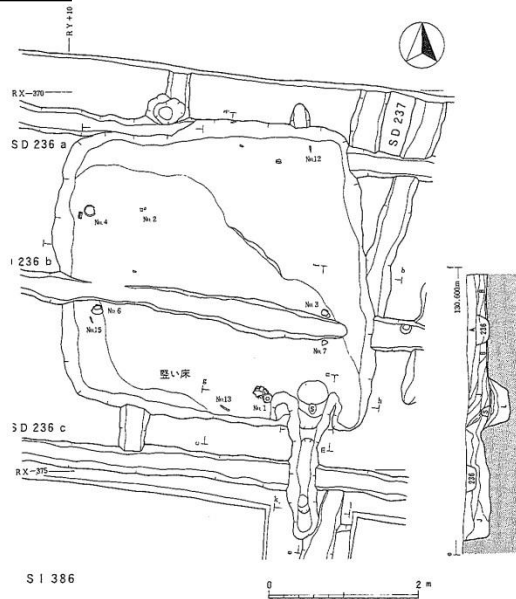


第 101 図 志波城跡 外郭内南辺中央【803～811 年】(1)
SI437・SI432・SI433〔第 49 次(H1), 市教委 1990〕

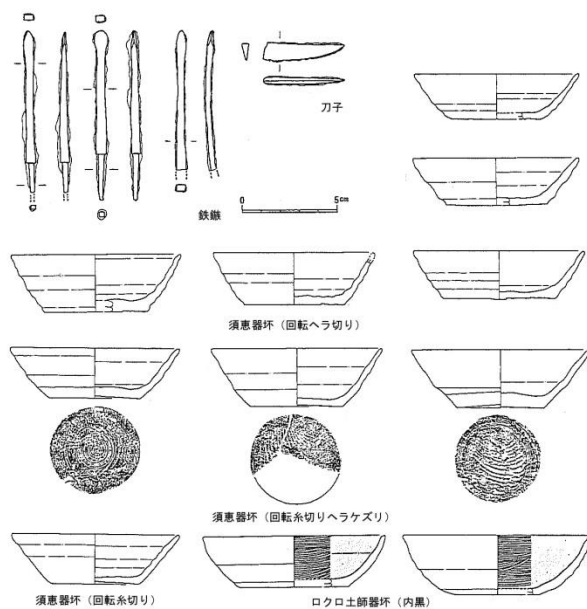
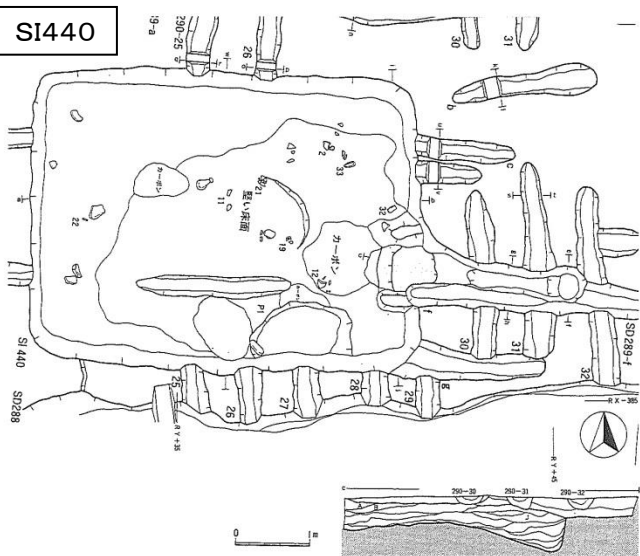


SI389·SI387〔第 23 次(S56), 市教委 1982〕

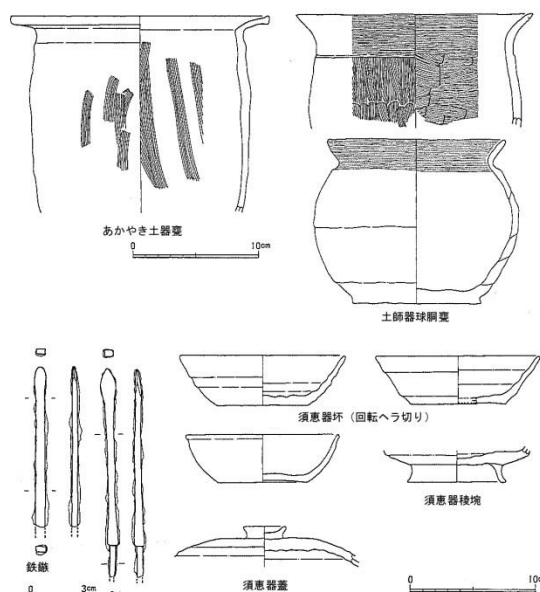
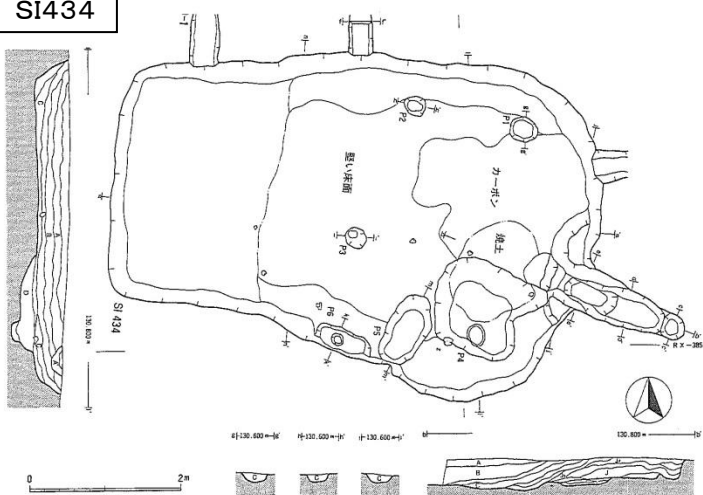
SI386



SI440



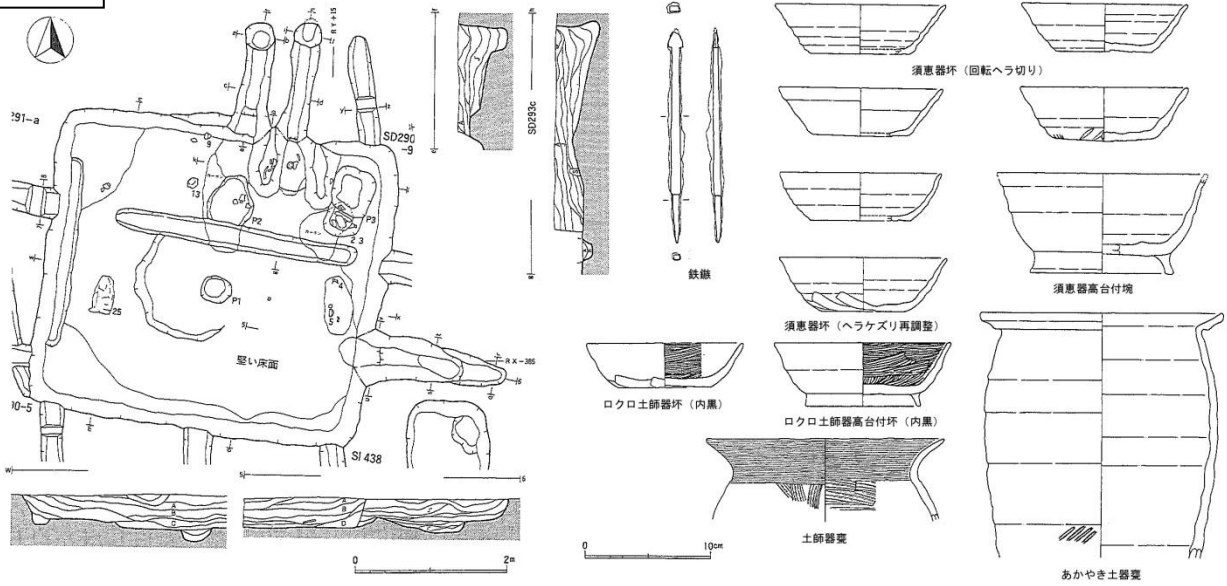
SI434



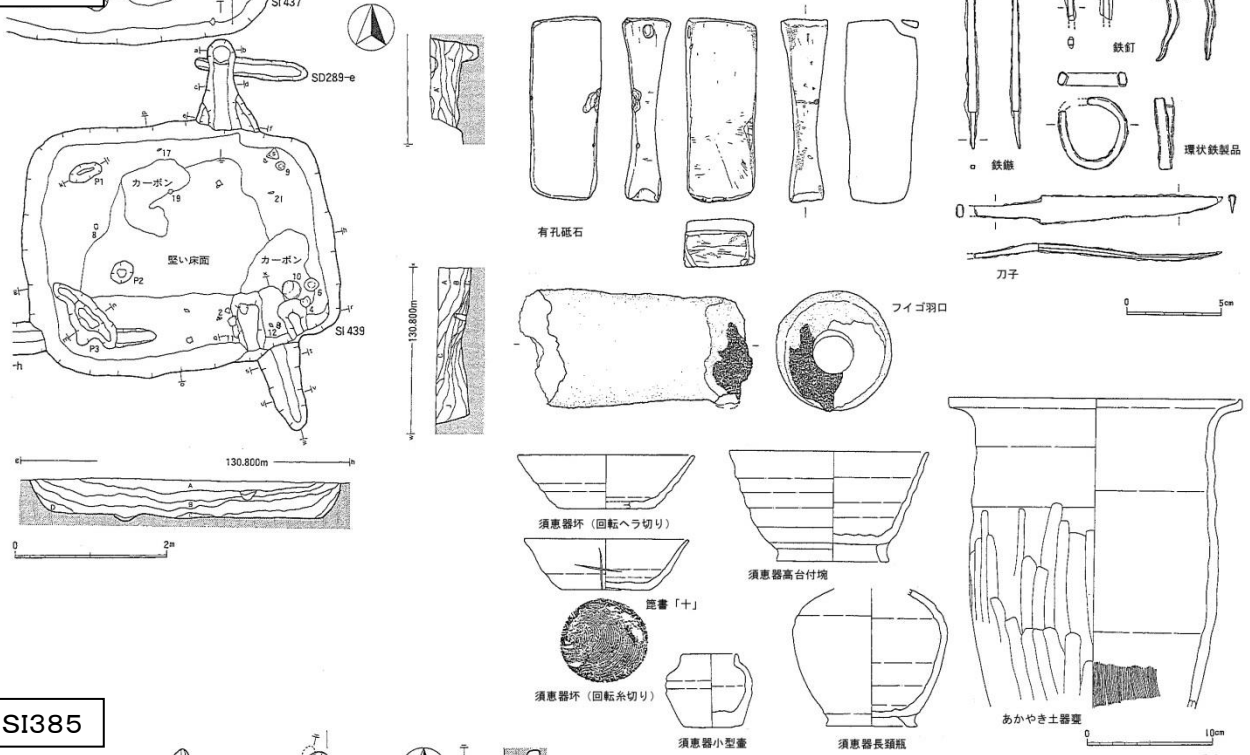
第 103 図 志波城跡 外郭内南辺中央【803~811 年】(3)

SI386[第 23 次(S56), 市教委 1982], SI440・SI434[第 49 次(H1), 市教委 1990]

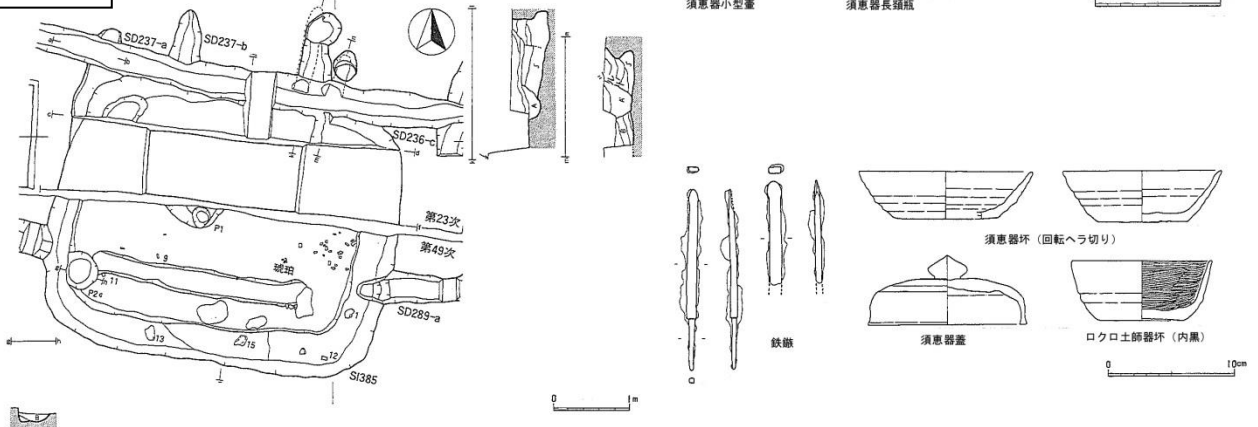
SI438



SI439

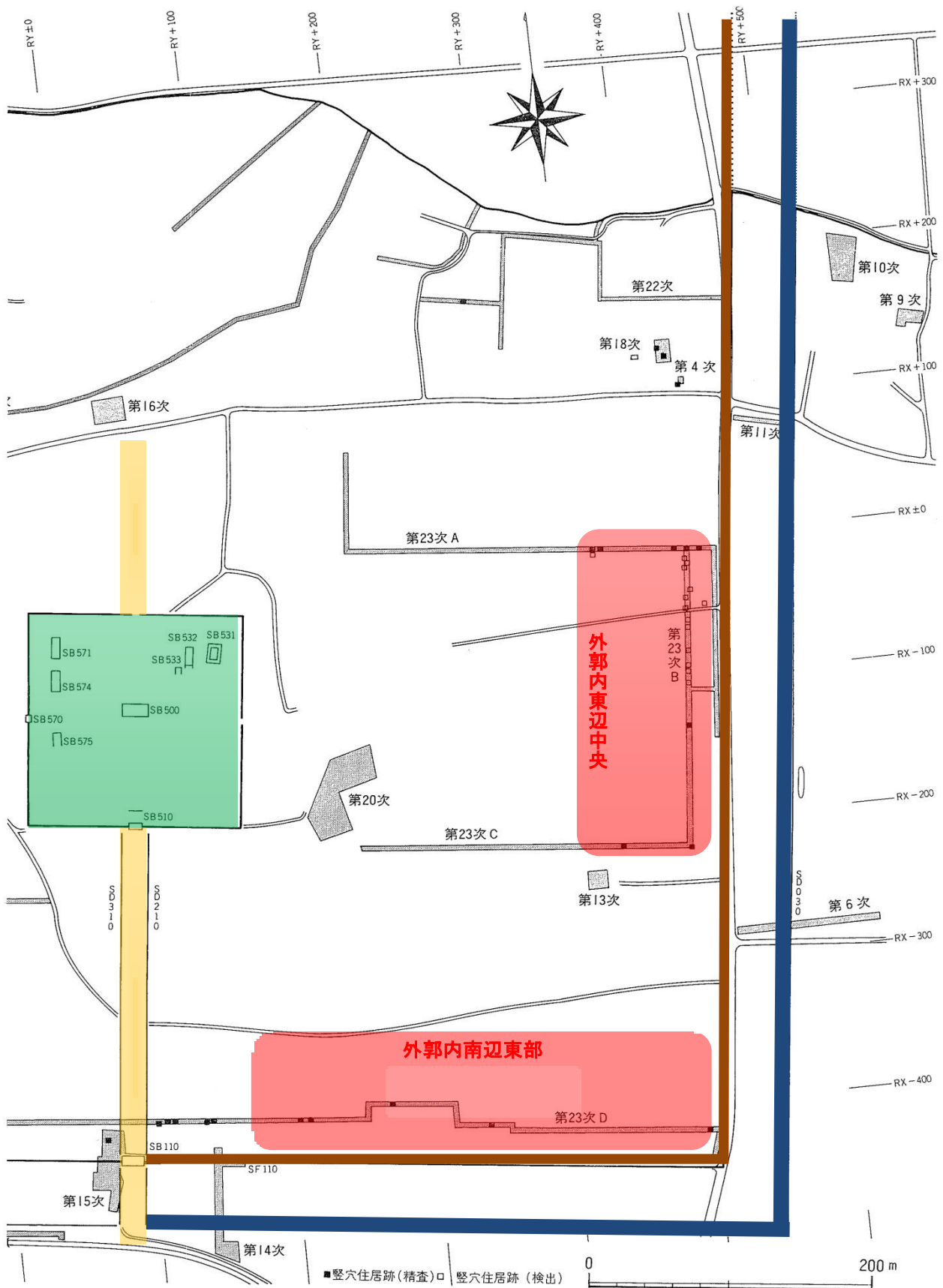


SI385



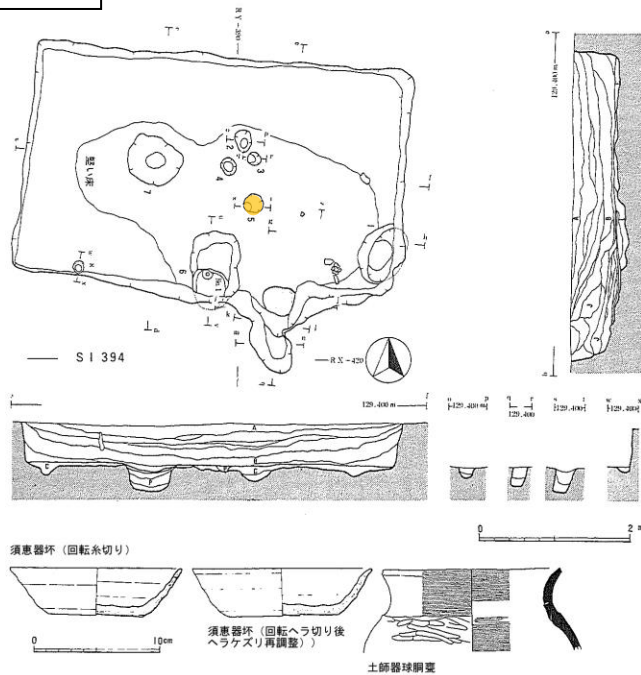
第 104 図 志波城跡 外郭内南辺中央【803~811 年】(4)

SI438・SI439・SI385〔第 49 次(H1), 市教委 1990〕

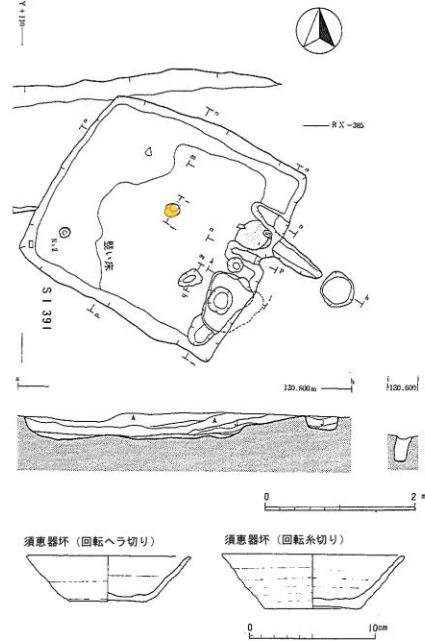


第 200 図 志波城跡 外郭内南辺東部, 外郭内東辺中央部 位置図

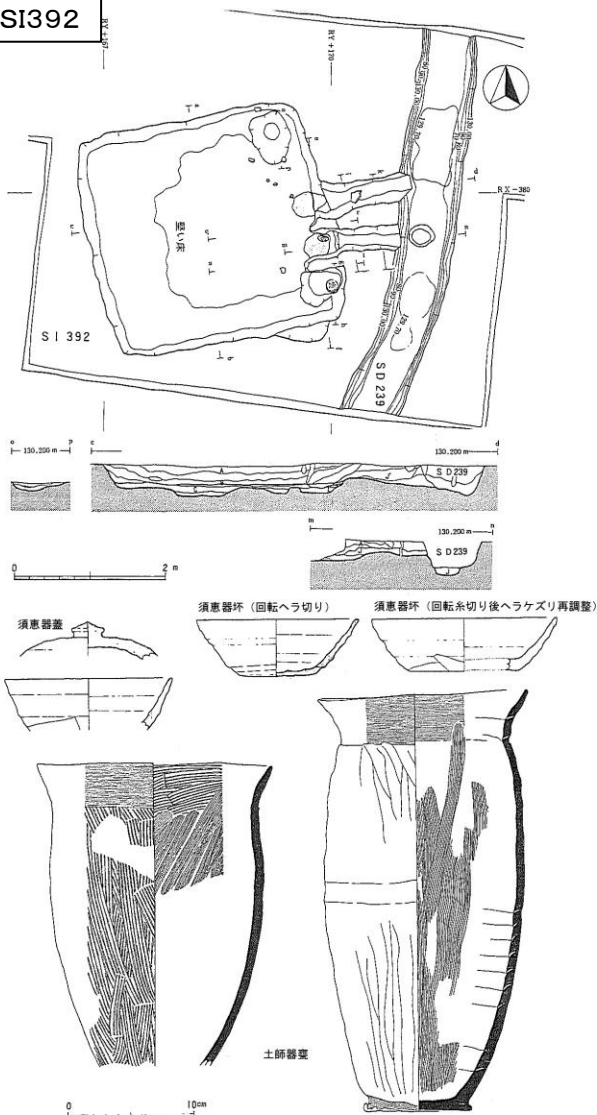
SI394



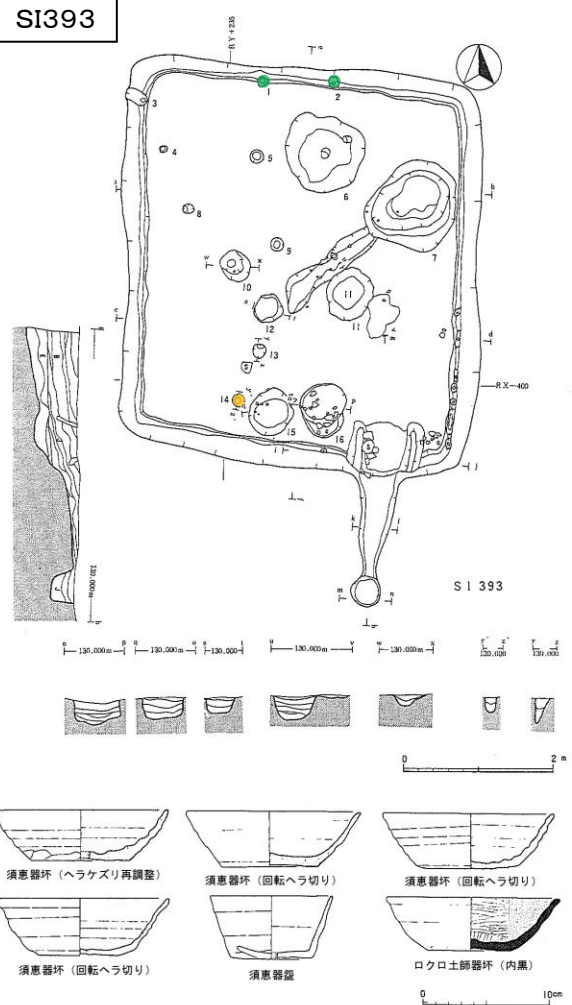
SI391



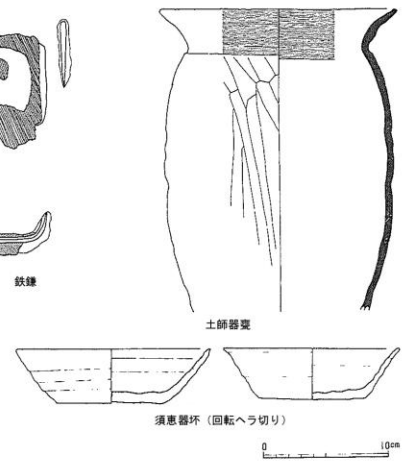
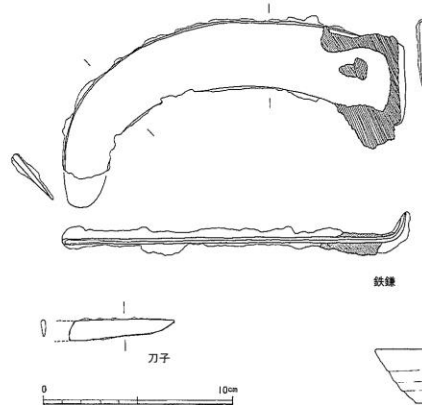
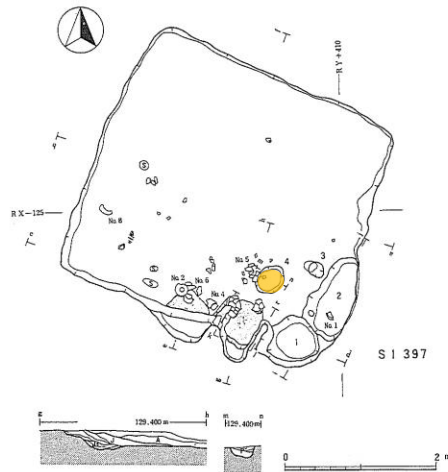
SI392



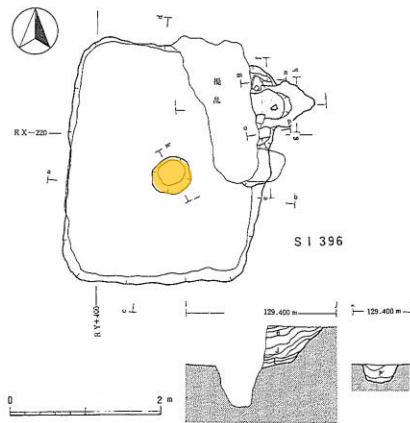
SI393



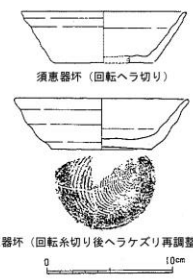
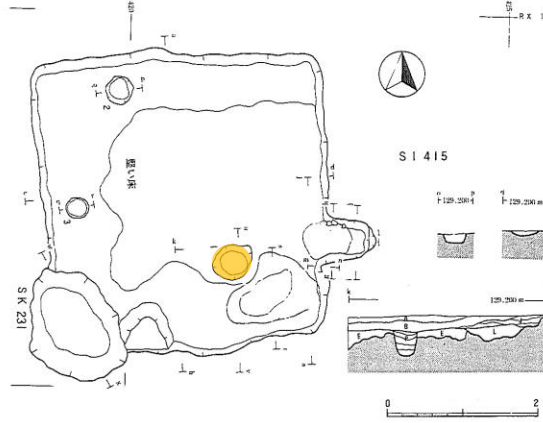
SI397



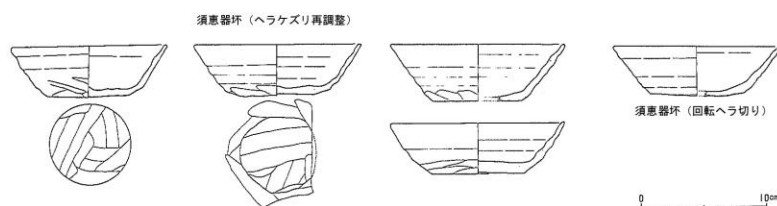
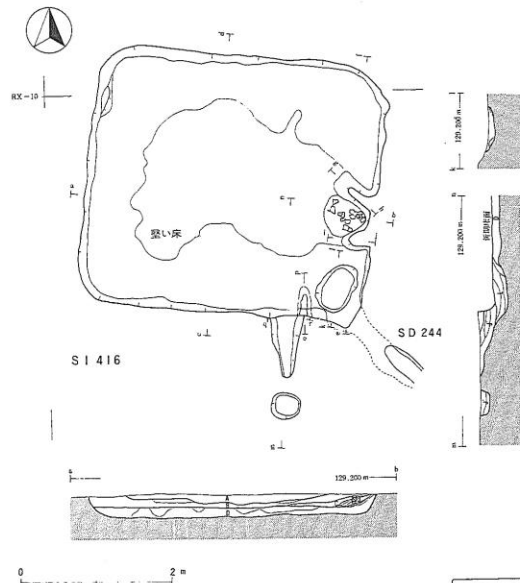
SI396



SI415

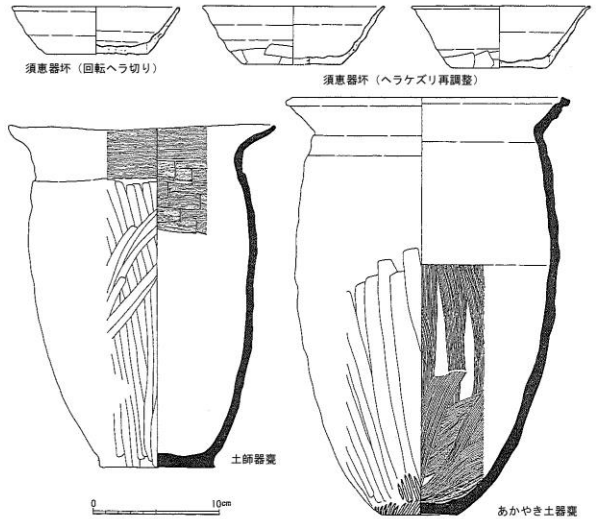
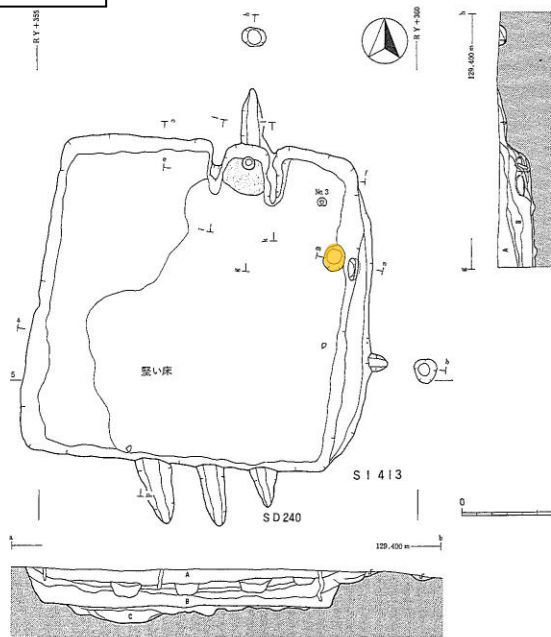


SI416

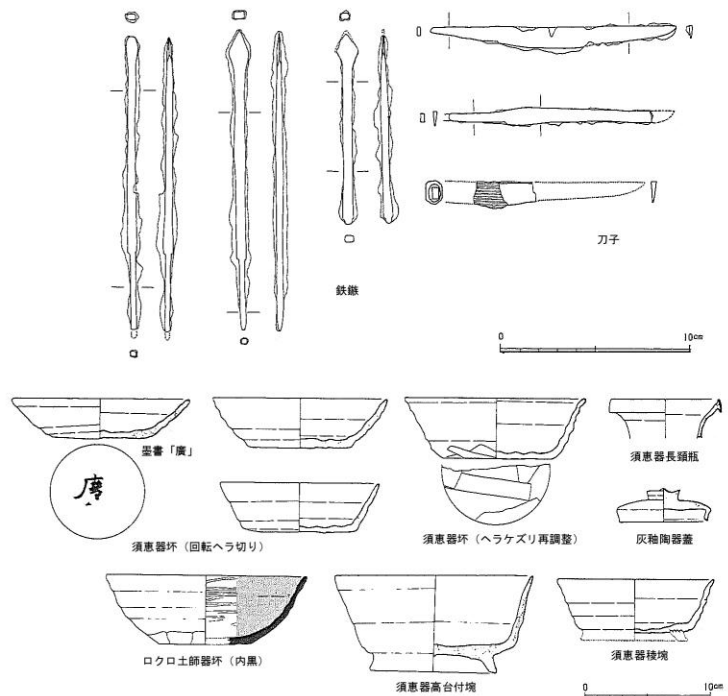


第 202 図 志波城跡 外郭内東辺中央【803～811 年】(1)
SI397・SI396・SI415・SI416〔第 23 次(S56), 市教委 1982〕

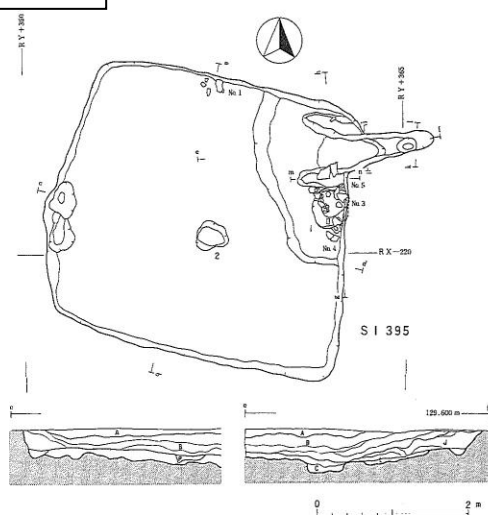
SI413



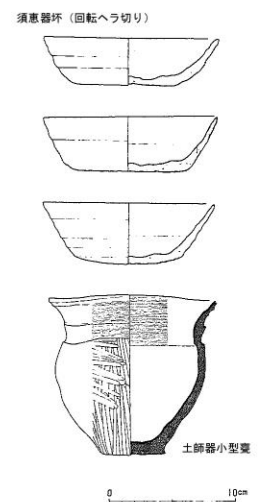
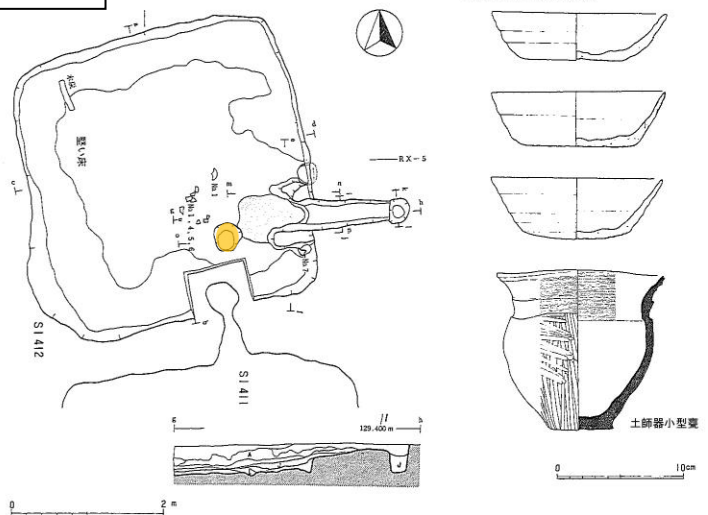
SI414



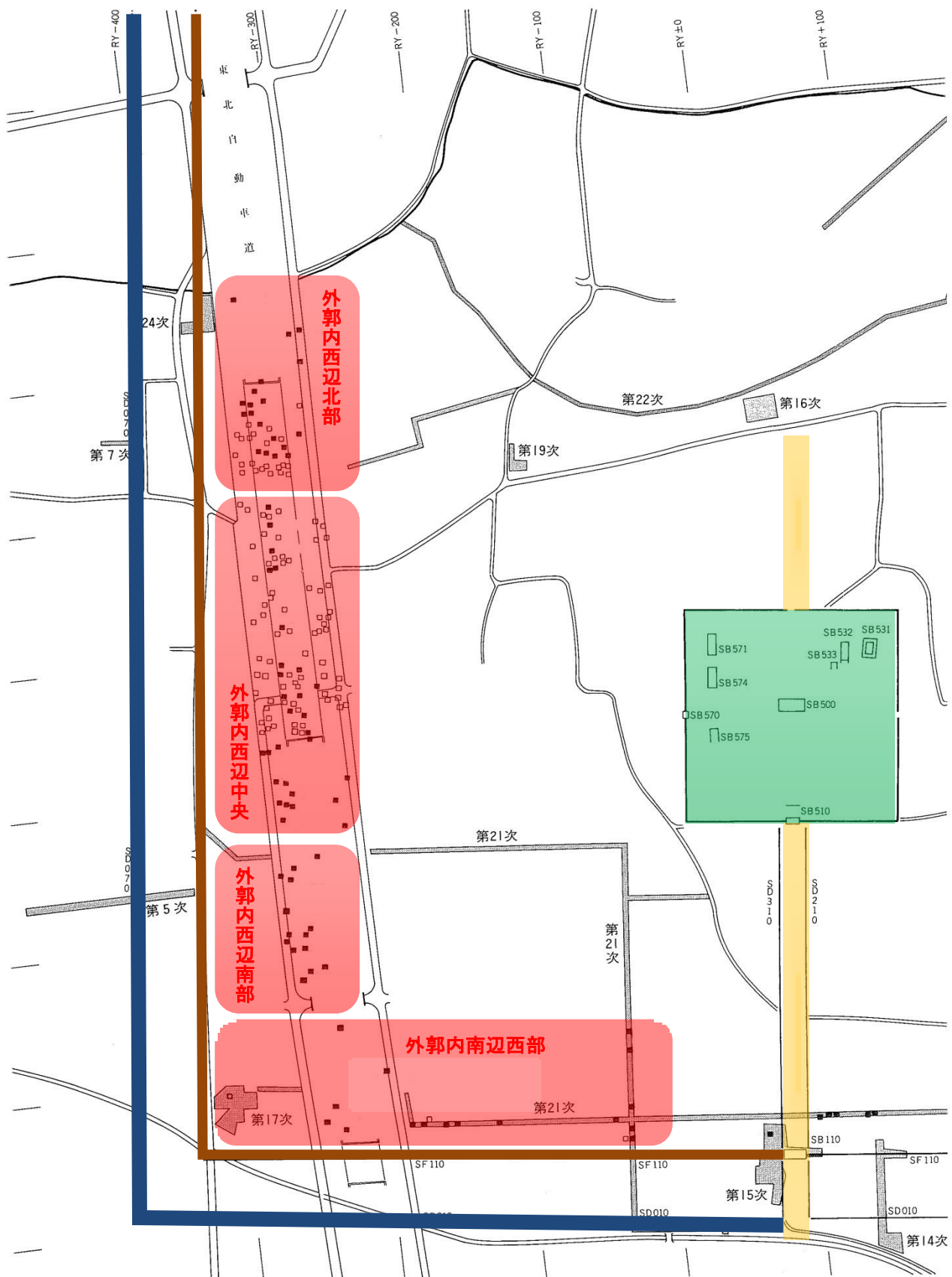
SI395



SI412

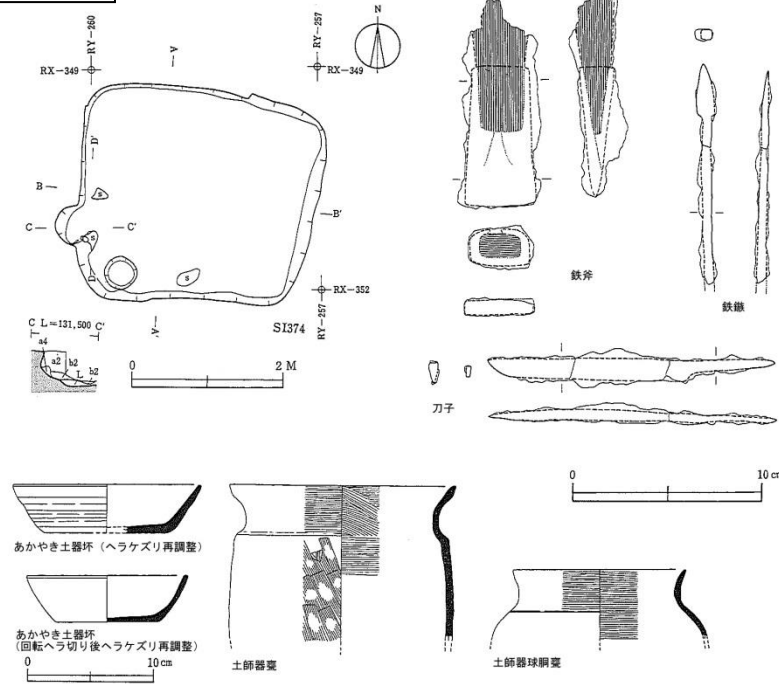


第 203 図 志波城跡 外郭内東辺中央【803~811 年】(2)
SI413・SI414・SI395・SI412〔第 23 次(S56), 市教委 1982〕

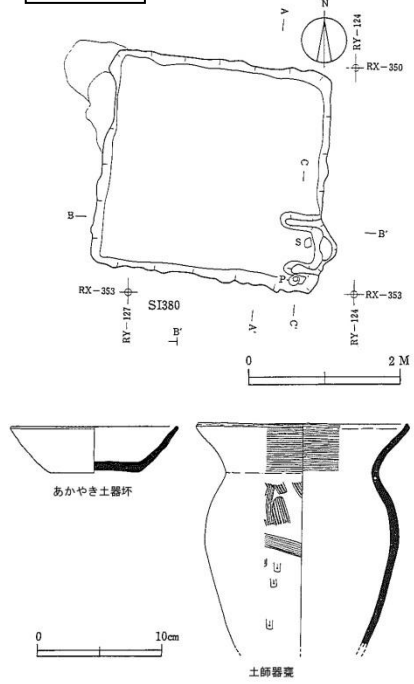


第 300 図 志波城跡 外郭内南辺西部, 外郭内西辺南部・中央・北部 位置図

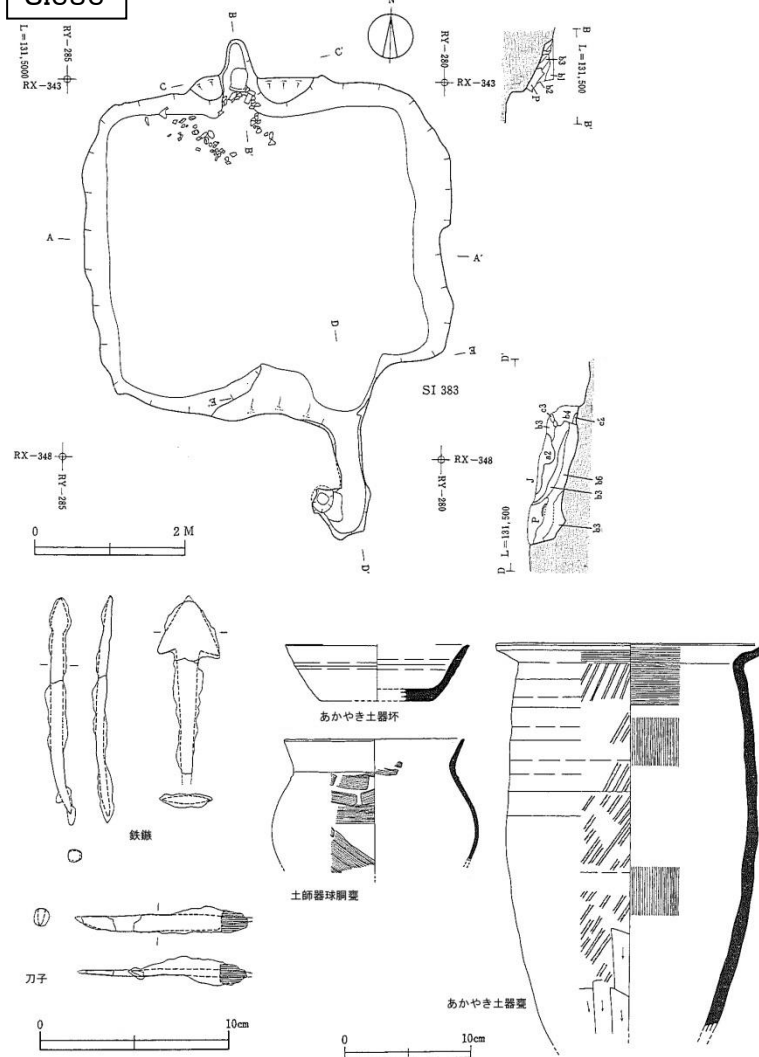
SI374



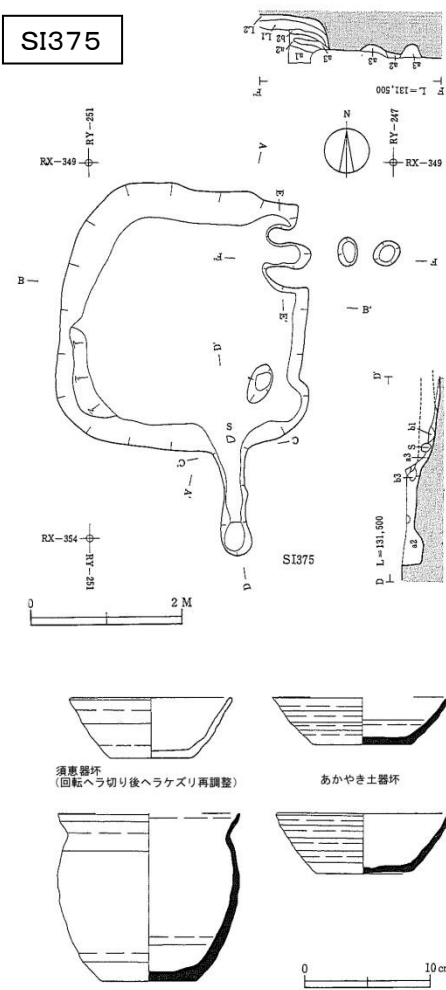
SI380



SI383

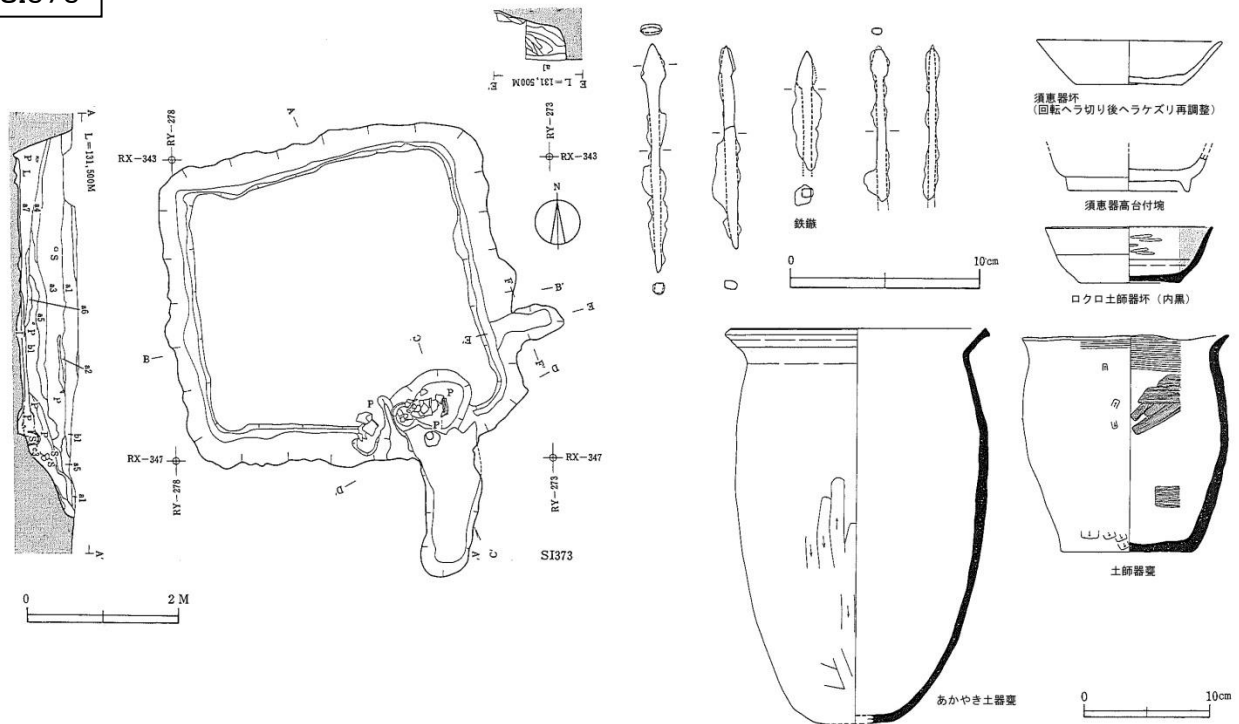


SI375

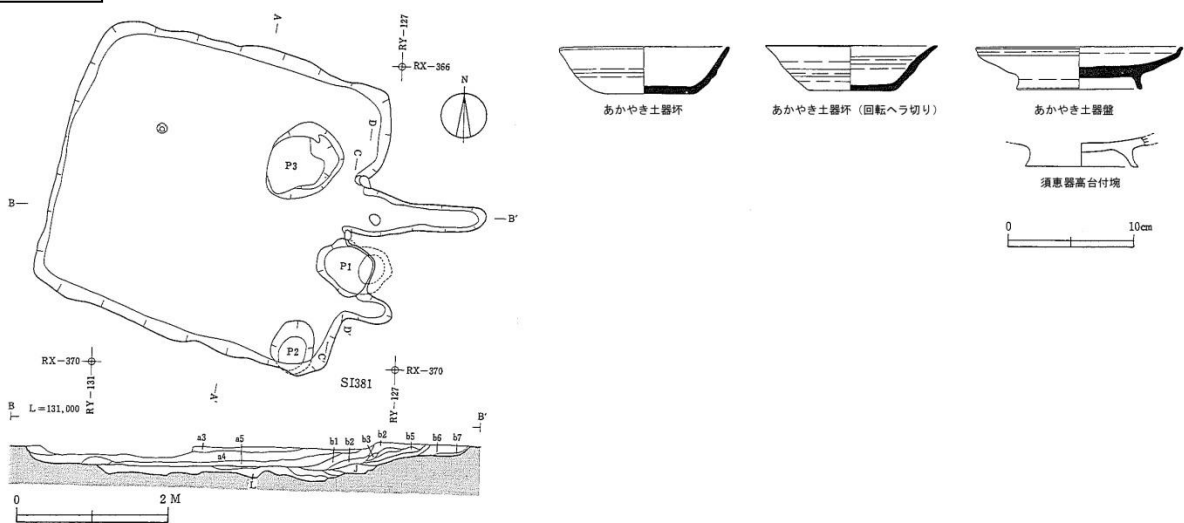


第 301 図 志波城跡 外郭内南辺西部【803~811 年】(1)
SI374・SI380・SI383・SI375〔第 21 次(S56), 県埋文 1982(第 45 集)〕

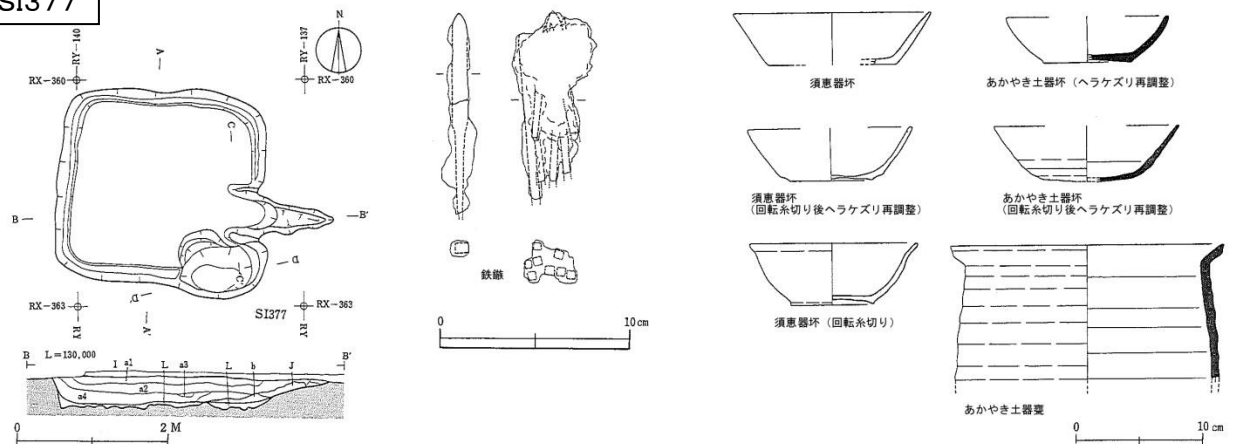
SI373



SI381

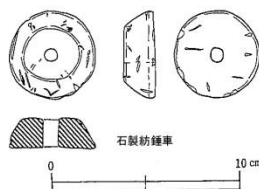
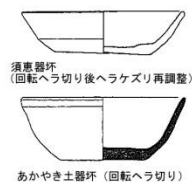
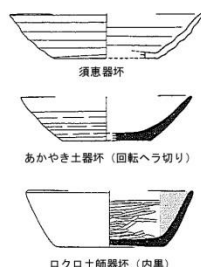
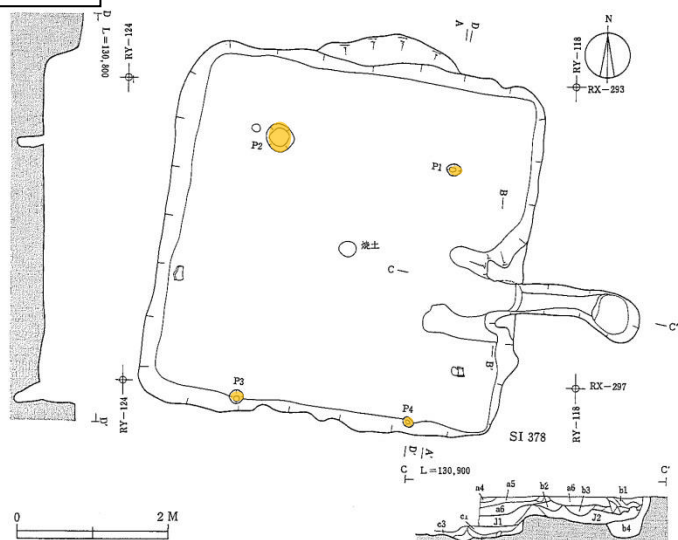


SI377

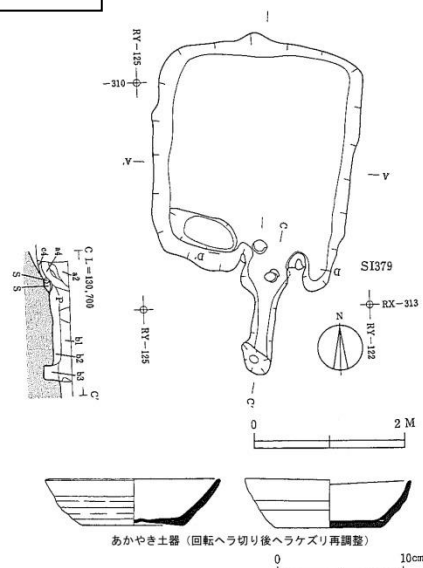


第 302 図 志波城跡 外郭内南辺西部【803~811 年】(2)
SI373・SI381・SI377【第 21 次(S56), 県埋文 1982(第 45 集)】

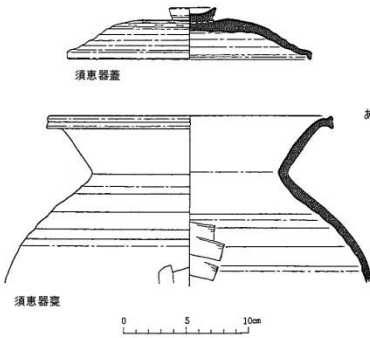
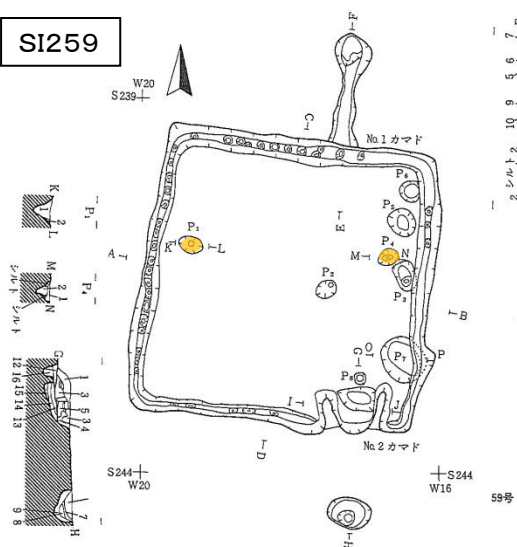
SI378



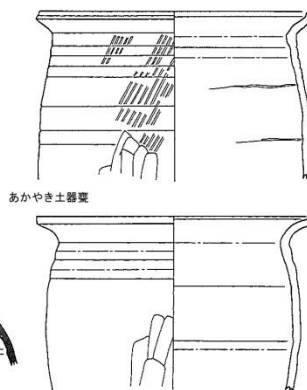
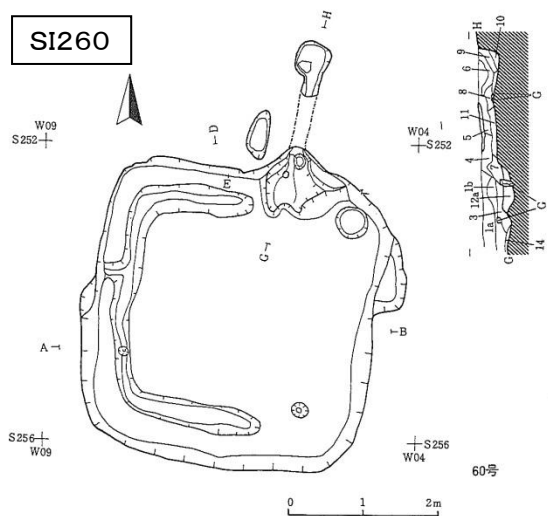
SI379



SI259

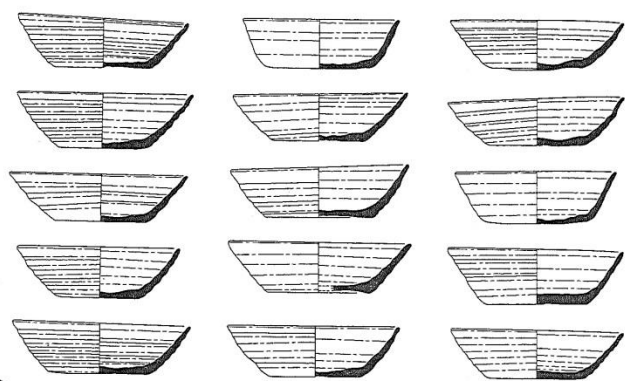


SI260



第 303 図 志波城跡 外郭内南辺西部【803~811 年】(3)

SI378・SI379〔第 21 次(S56), 県埋文 1982(第 45 集)],
SI259・SI260〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕



須惠器坏（回転ヘラ切り）



須惠器高台付塀



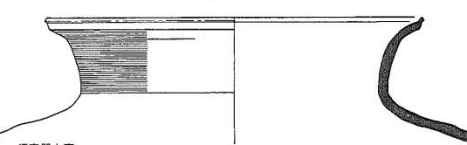
須惠器蓋



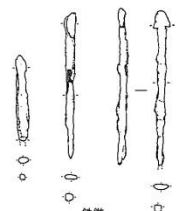
須惠器也



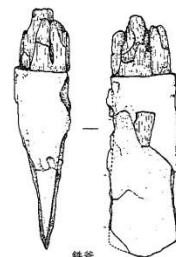
須惠器円面硯



須惠器大壺

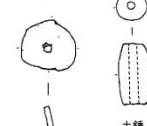


鐵鐵

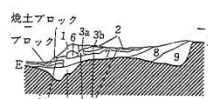
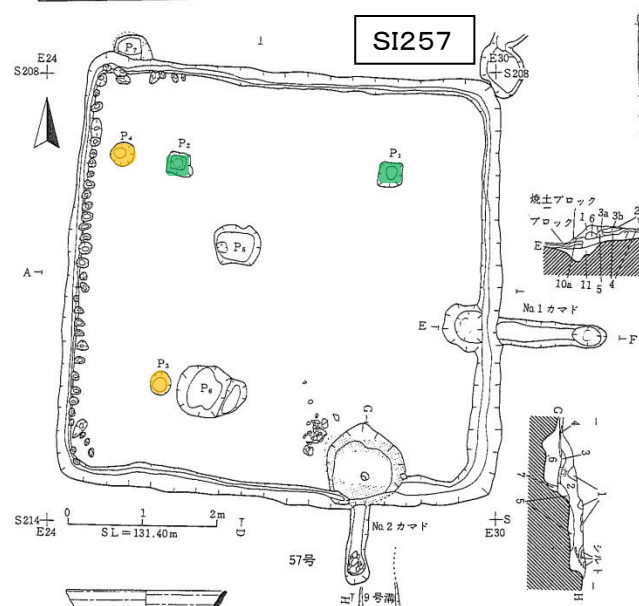


跌打

影片



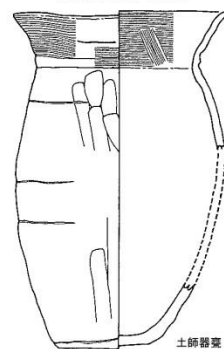
鐵製紡錘車



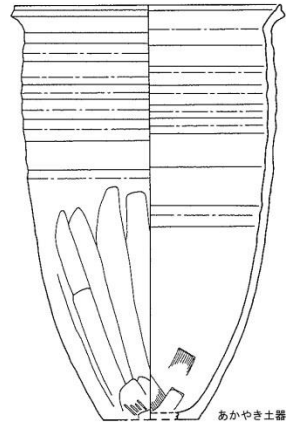
10



須惠器坏（回転ヘラ切り）



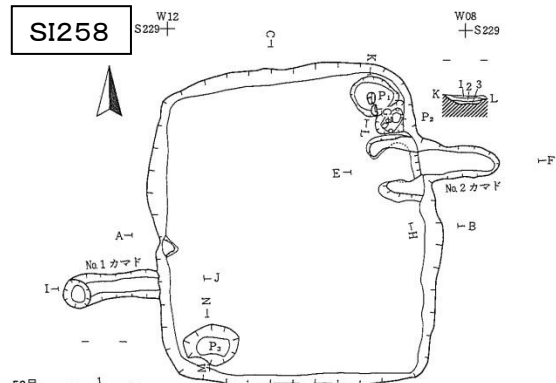
土師器甕



あかやき土器甕



SI258



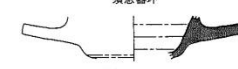
508



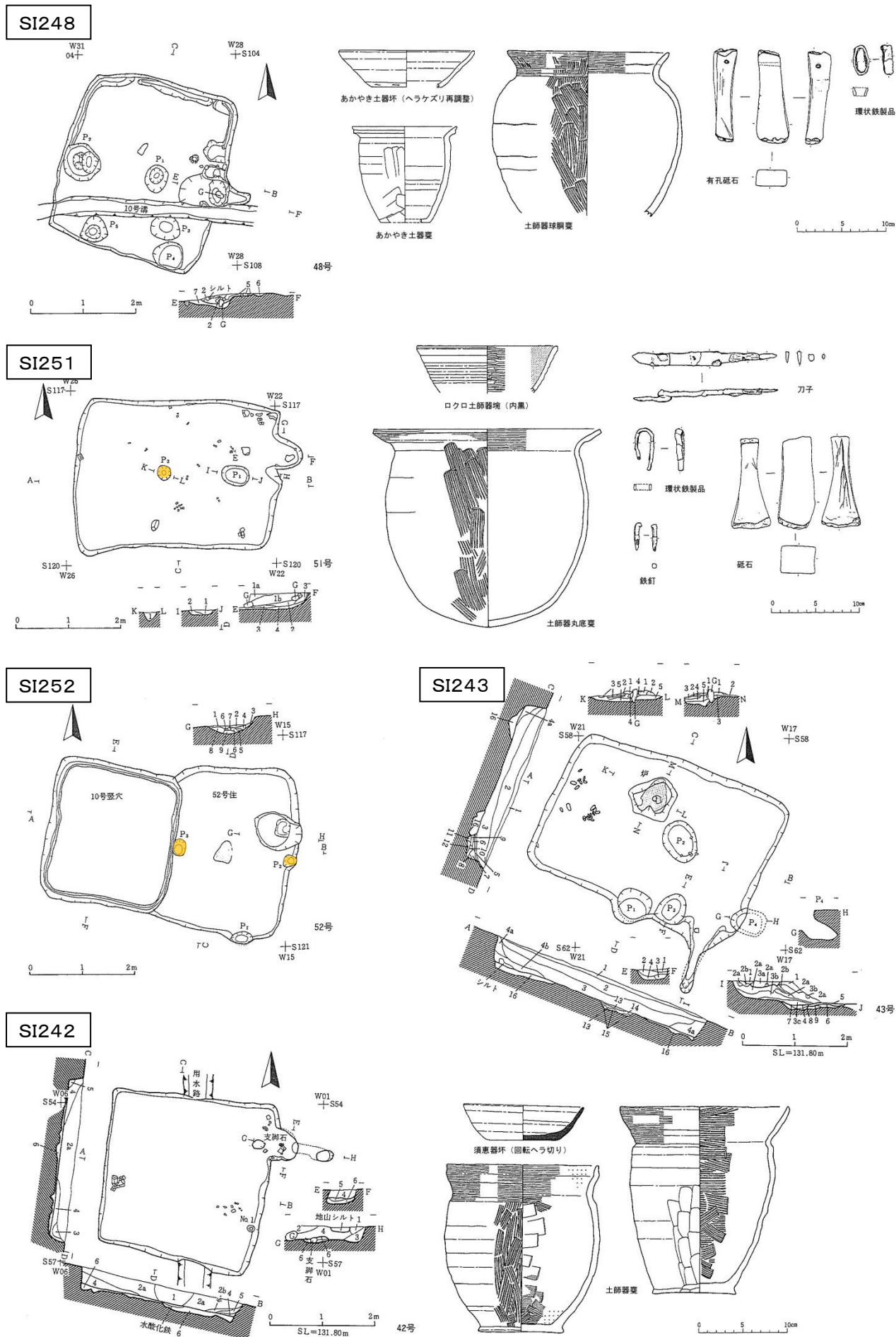
1a 1b



須重哭懷

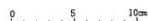
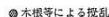


SI256・SI257・SI258〔第1・2次(S51・52), 県教委 1982(第68集)〕



第 305 図 志波城跡 外郭内西辺南部【803~811 年】(1)

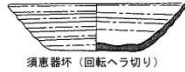
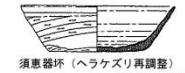
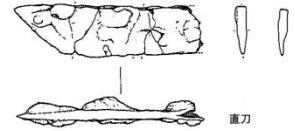
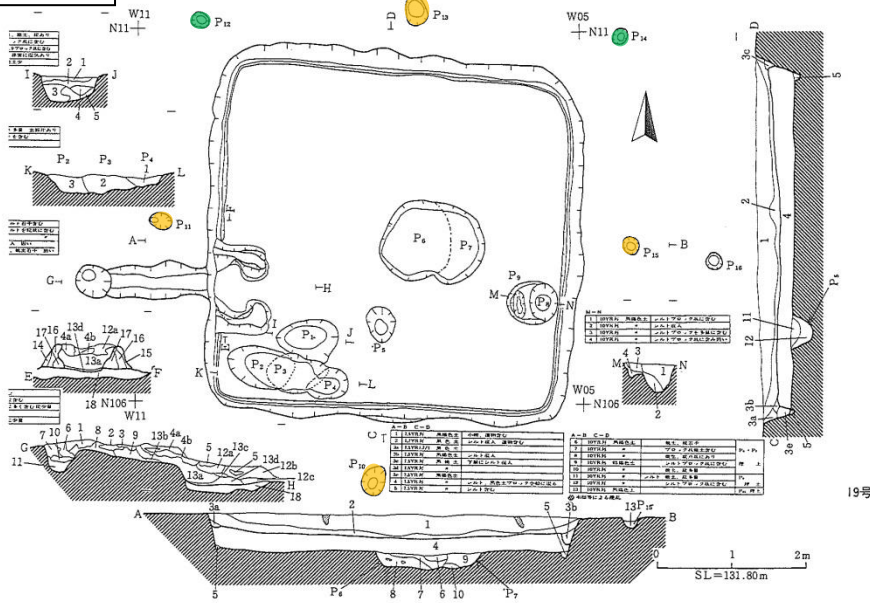
SI248・SI251・SI252・SI243・SI242〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕



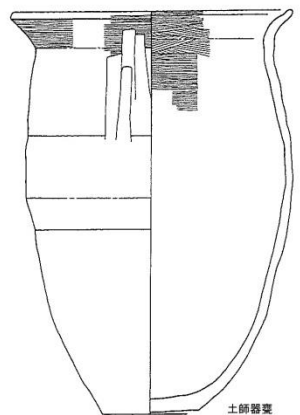
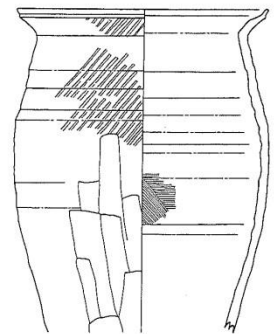
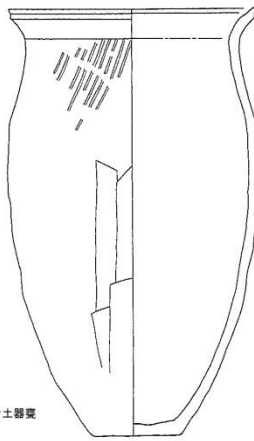
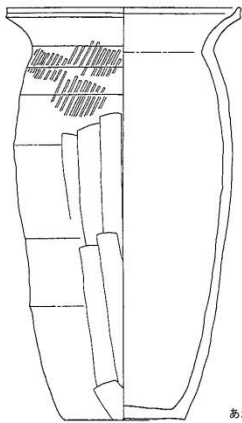
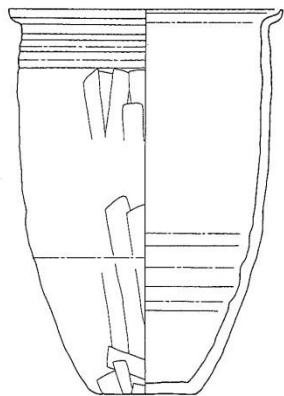
第 307 図 志波城跡 外郭内西辺南部【803～811 年】(3)

SI246〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕

SI219

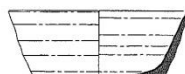
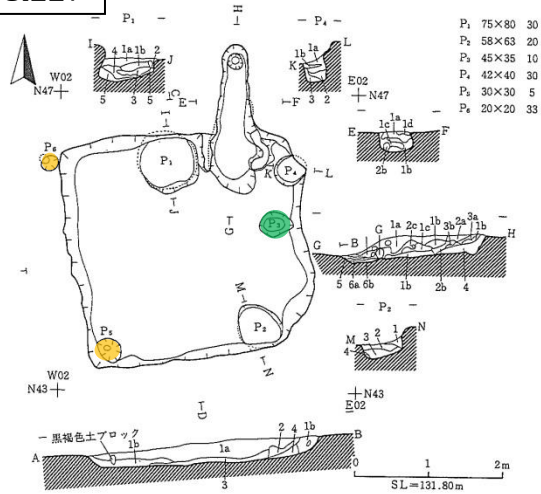


19号

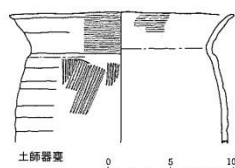


0 5 10cm

SI227



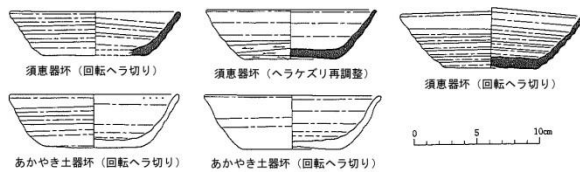
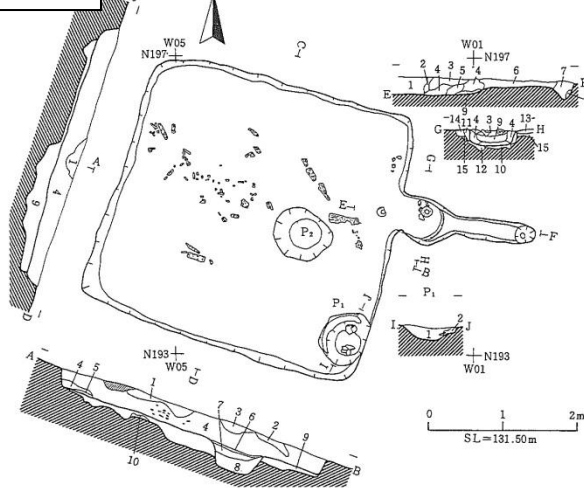
27号



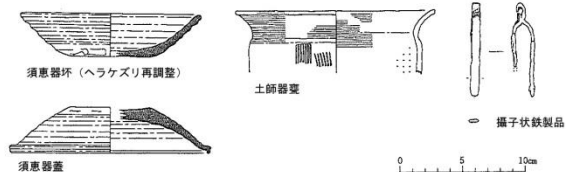
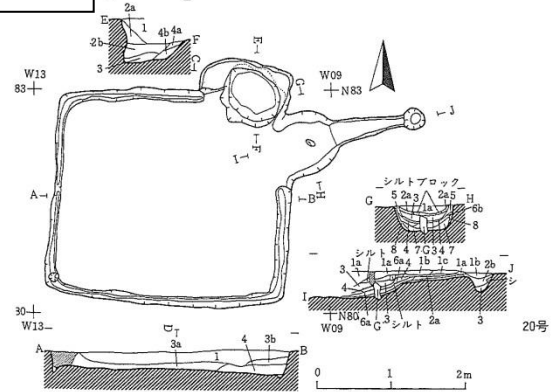
0 5 10cm

第 310 図 志波城跡 外郭内西辺中央【803~811 年】(3)
SI219・SI227〔第 1・2 次(S51~52), 県教委 1982(第 68 集)〕

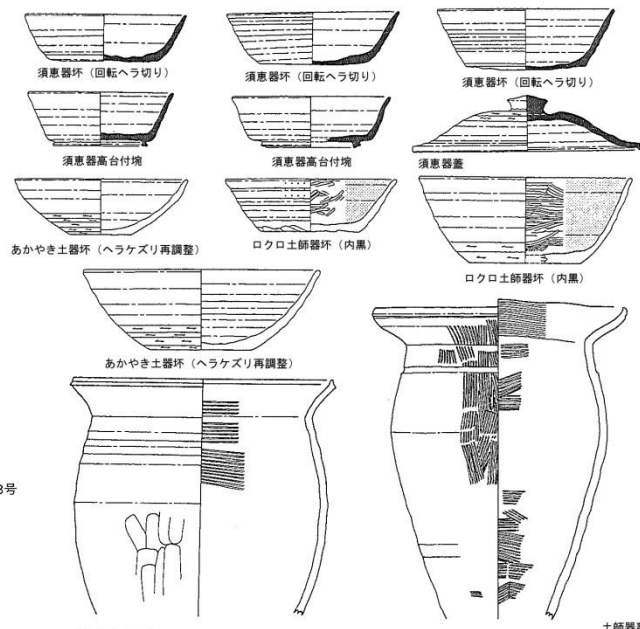
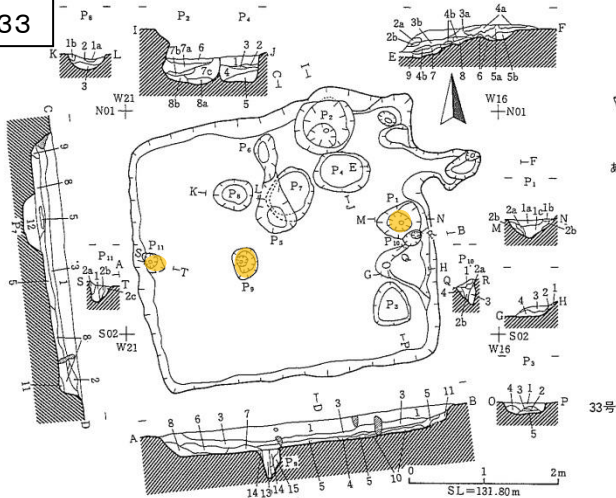
SI214



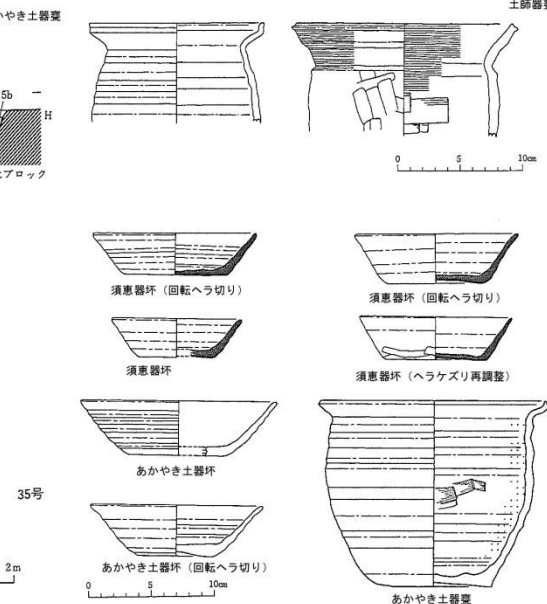
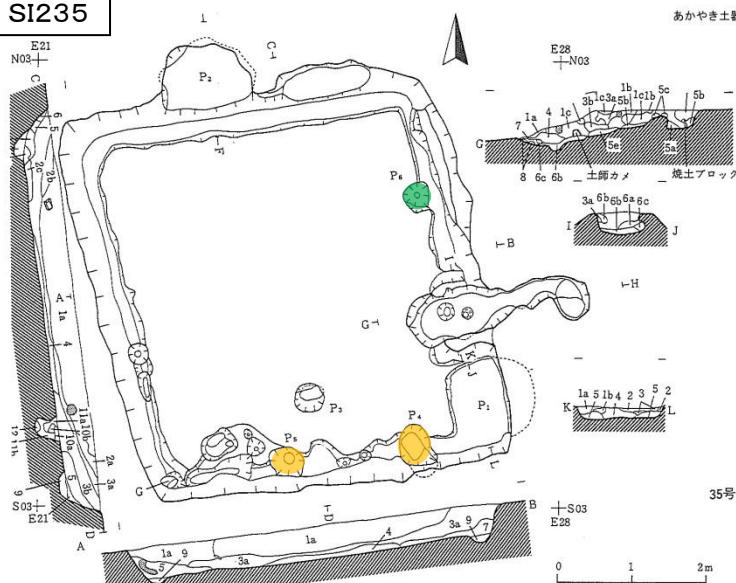
SI220



SI233



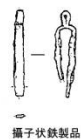
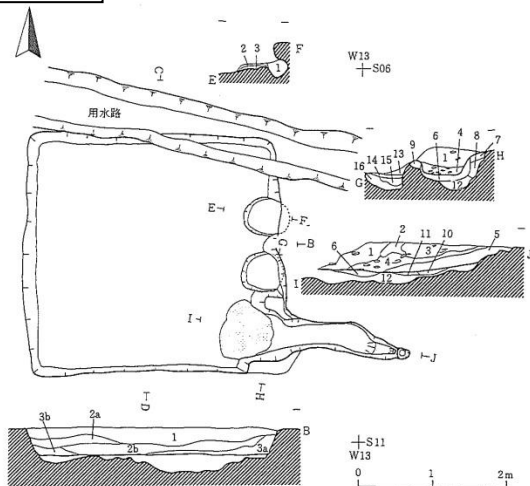
SI235



第 311 図 志波城跡 外郭内西辺中央【803~811 年】(4)

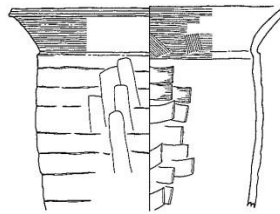
SI214・SI220・SI233・SI235〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)]

SI236

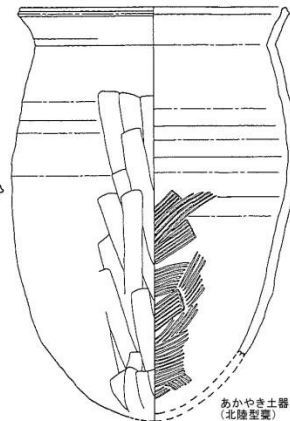


須恵器坏 (回転ヘラ切り)

ロクロ土師器坏 (内黒)



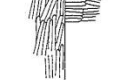
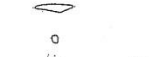
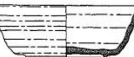
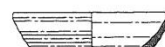
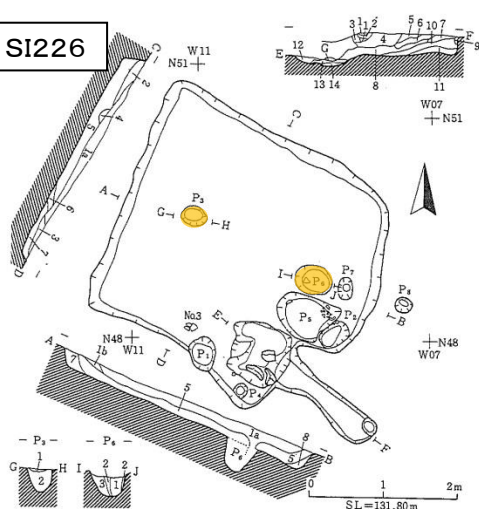
土師器甕



あかやき土器丸底甕 (北陸型甕)

36号

SI226



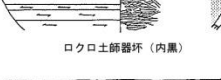
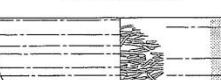
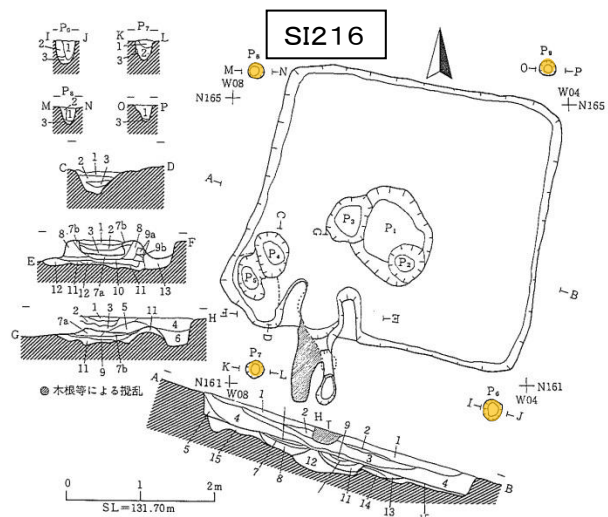
あかやき土器高台付碗

土師器甕

鉄器

26号

SI216



土師器球甕

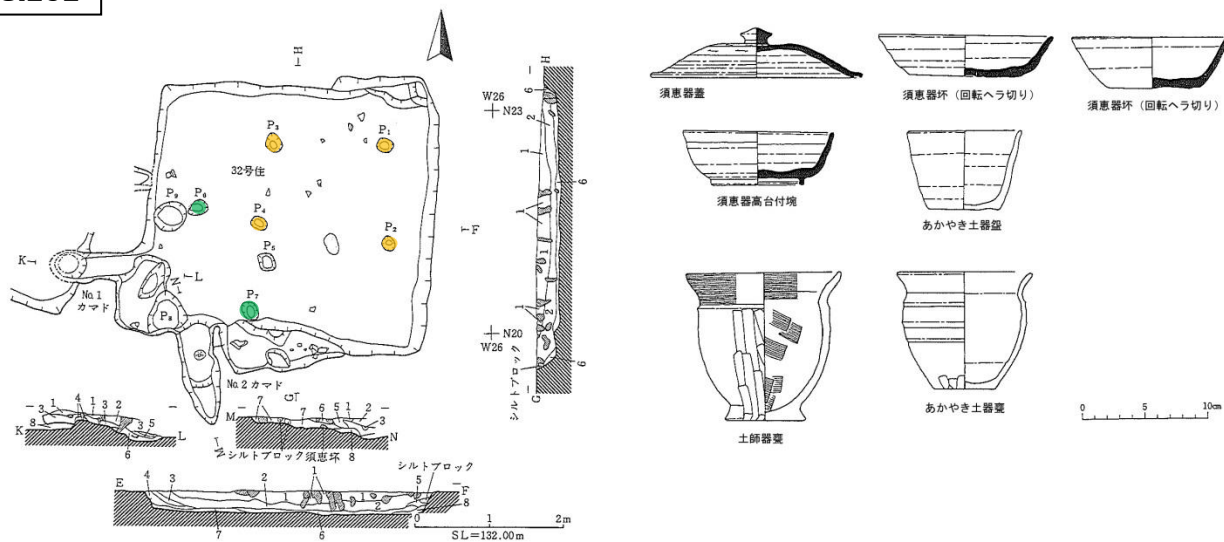
0 5 10cm

16号

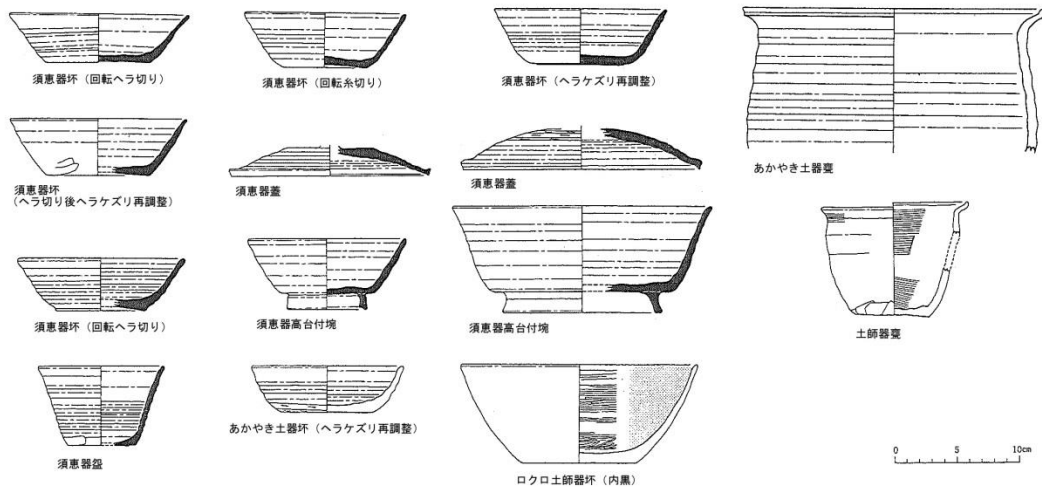
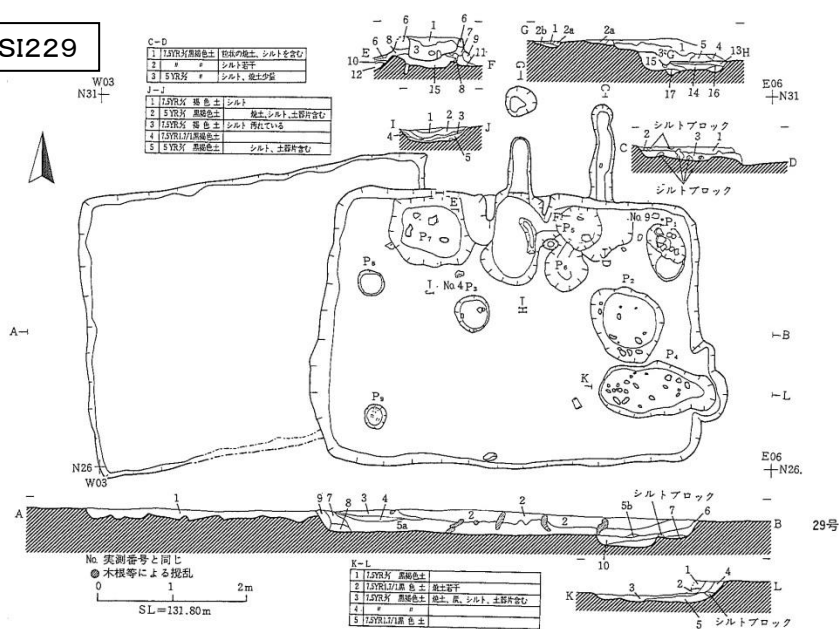
第 312 図 志波城跡 外郭内西辺中央【803~811 年】(5)

SI236・SI226・SI216〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕

SI232

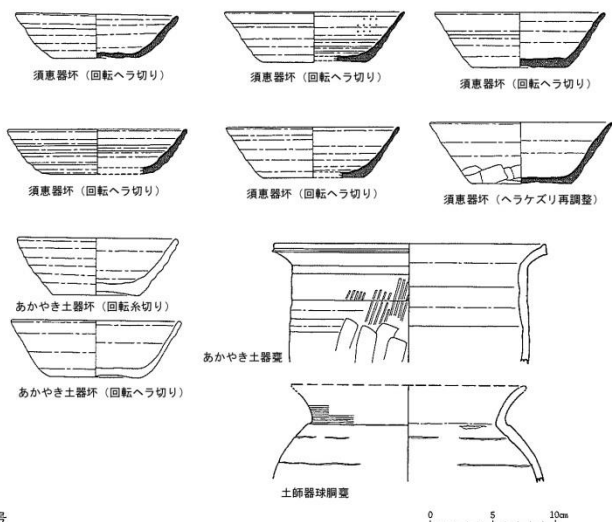


SI229

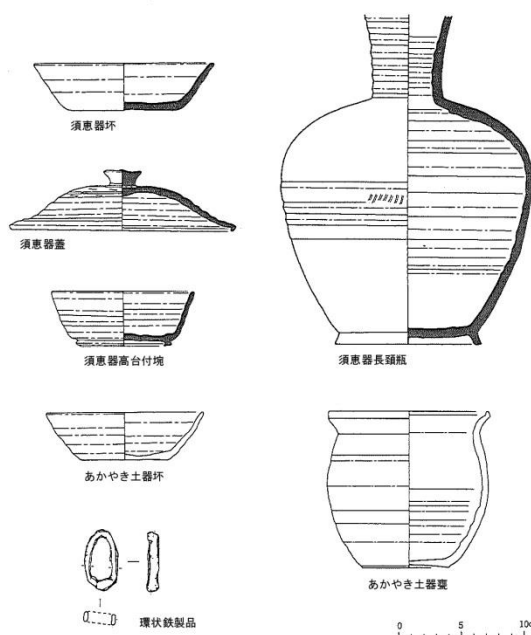
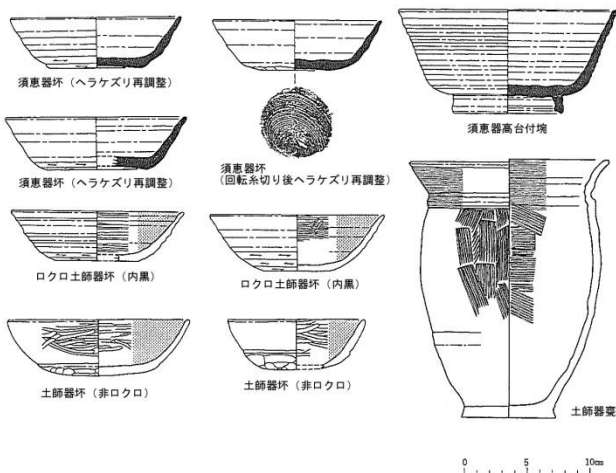


第 313 図 志波城跡 外郭内西辺中央【803~811 年】(6)
SI232・SI229〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕

Archaeological plan and sections of the Katsuta Site. The main plan shows a large rectangular structure with internal divisions and several smaller structures labeled No. 1, No. 3, and No. 4. A north arrow is present. Three sections are shown: Section A-A' on the left, Section B-B' at the bottom, and Section C-C' on the right. Each section shows the profile of the structures and the ground surface. Grid coordinates W15, N77, W10, N77, N72, and W10 are marked. A scale bar at the bottom indicates 0, 1, and 2 meters.

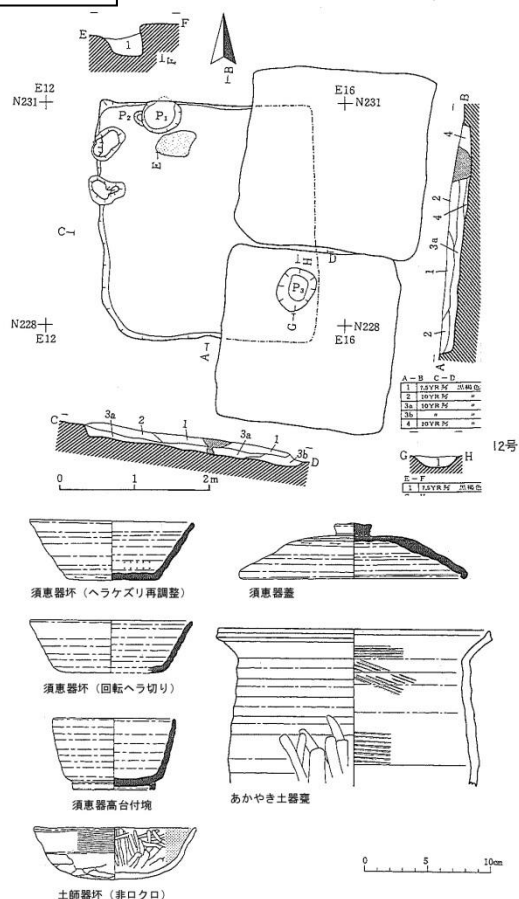


22号

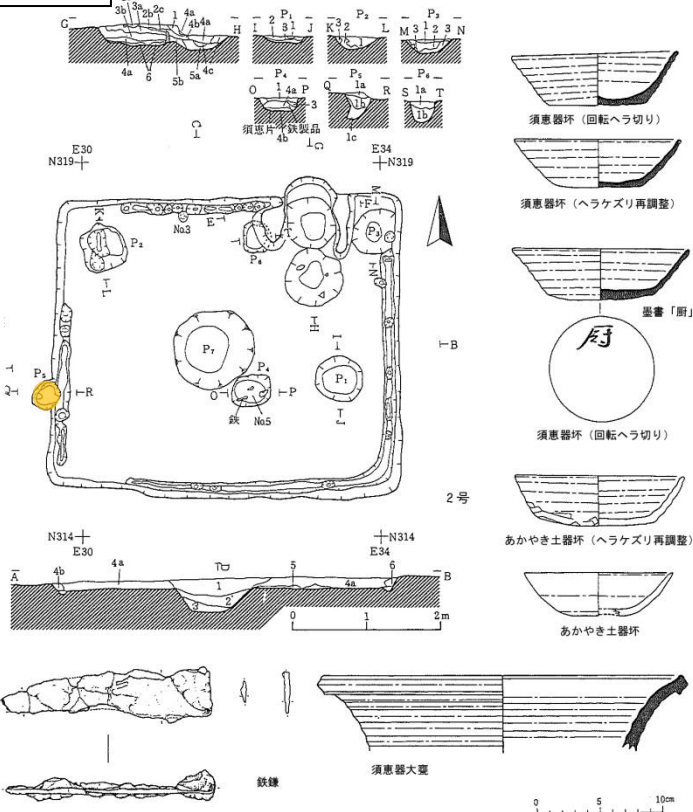


第 314 図 志波城跡 外郭内西辺中央【803~811 年】(7)
SI222・SI217・SI225〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕

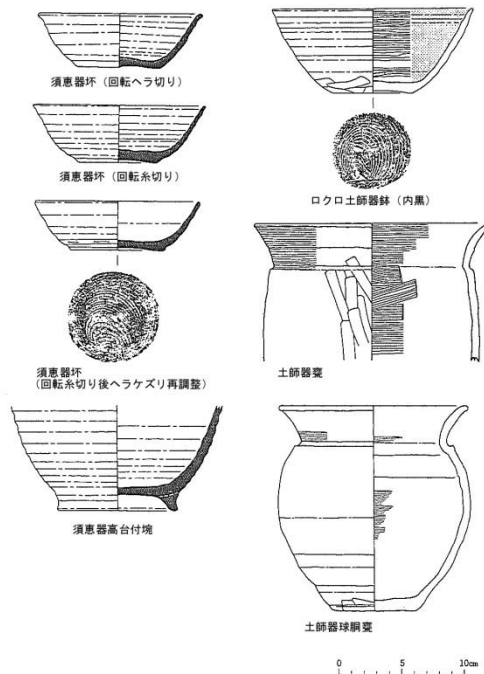
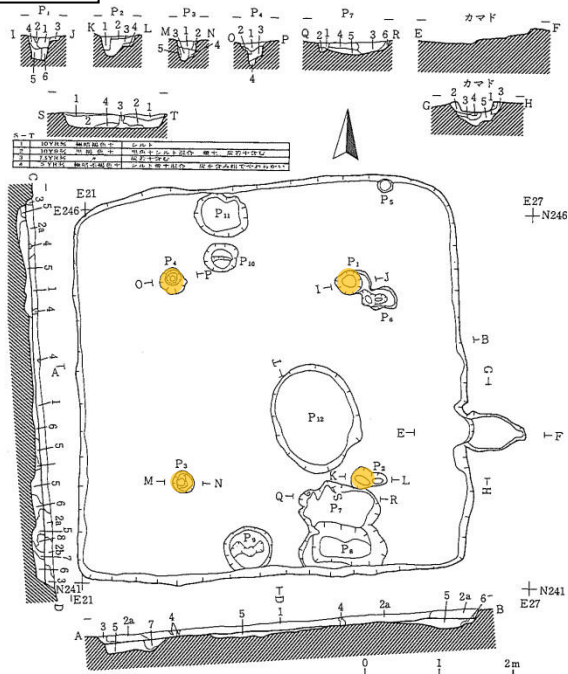
SI212



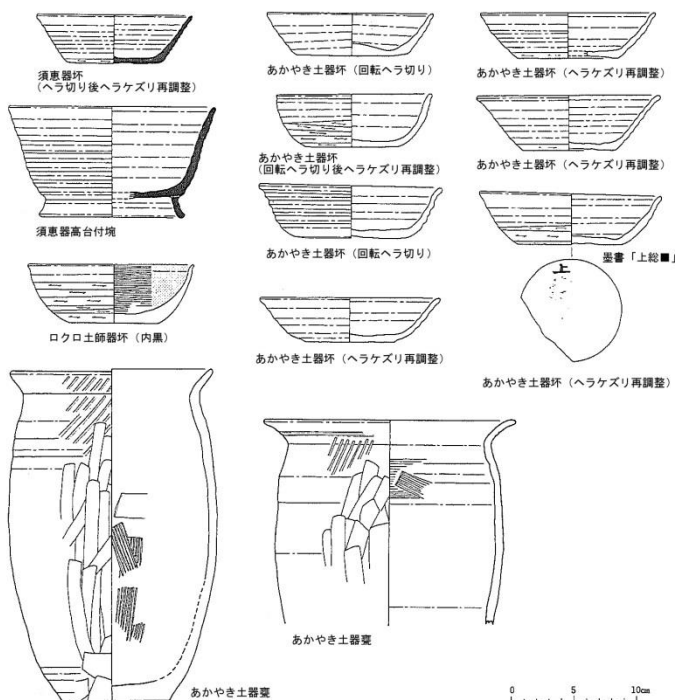
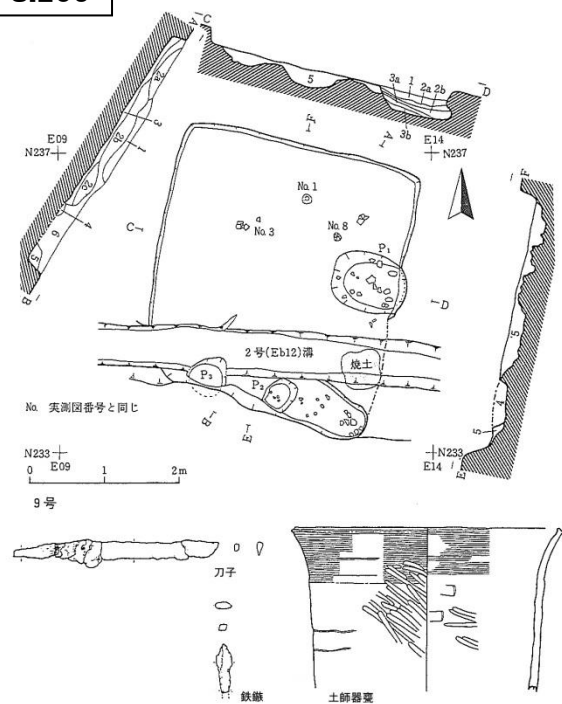
SI202



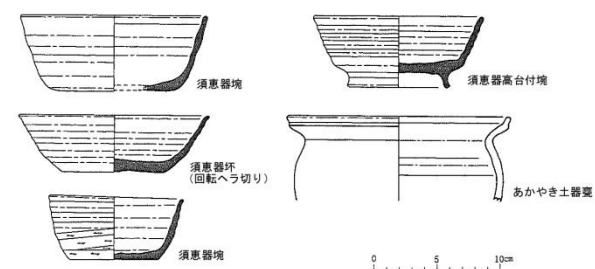
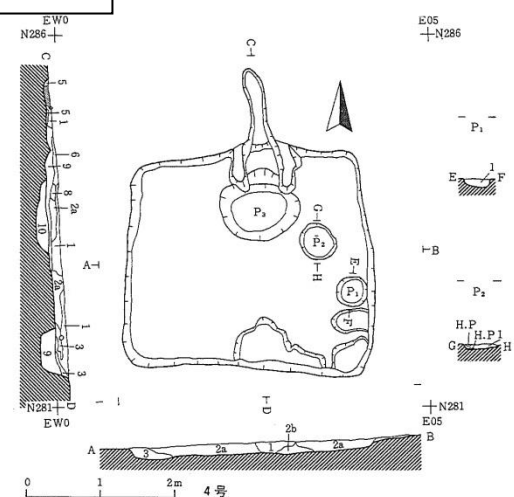
SI207



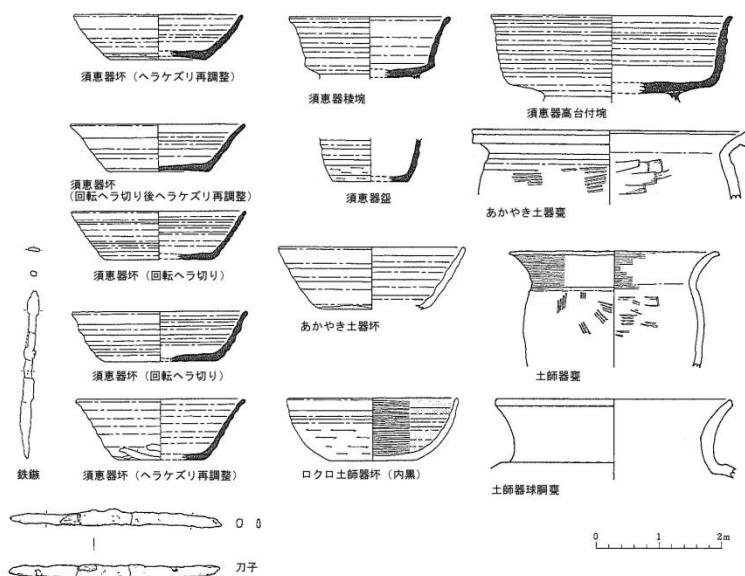
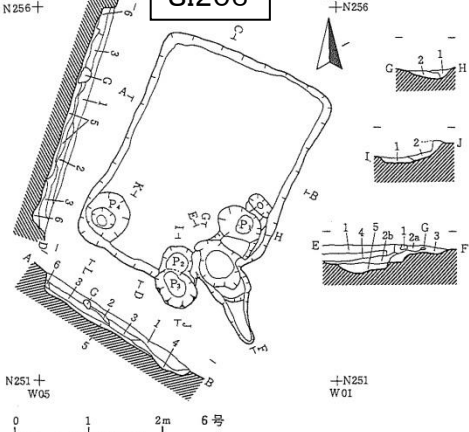
SI209



SI204



SI206



第 317 図 志波城跡 外郭内西辺北部【803~811 年】(3)

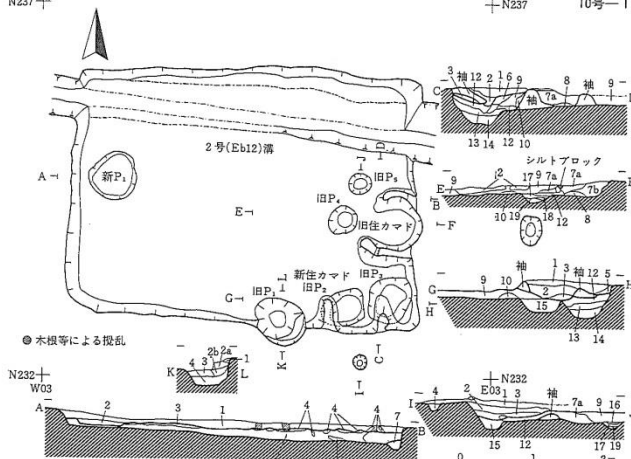
SI209・SI204・SI206〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕

SI210

W03
N237

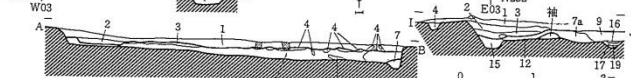
E03
N237

10号—2
10号—1

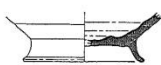


● 本根等による段乱

N232
W03



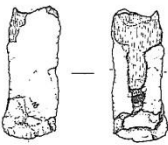
須恵器坏 (ヘラケズリ再調整)



須恵器高台付埴



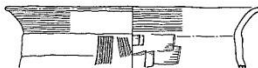
須恵器蓋



土師器埴



須恵器埴



土師器埴

10号—2 (Eb03 新)

0 5 10cm



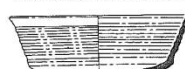
須恵器坏 (回転糸切り後ヘラケズリ再調整)



須恵器坏 (回転ヘラ切り)



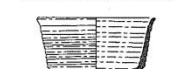
須恵器坏 (ヘラケズリ再調整)



須恵器高台付埴



須恵器高台付埴



須恵器蓋



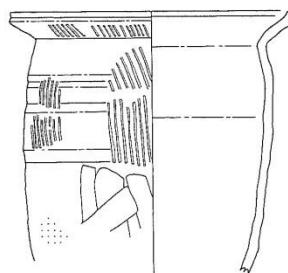
あかやき土器坏 (回転ヘラ切り)



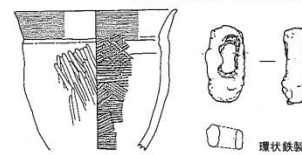
あかやき土器坏 (回転ヘラ切り)



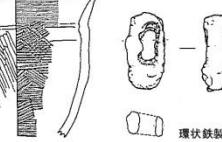
あかやき土器坏 (回転ヘラ切り後ヘラケズリ再調整)



あかやき土器埴



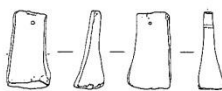
土師器埴



環状鉄製品



刀子

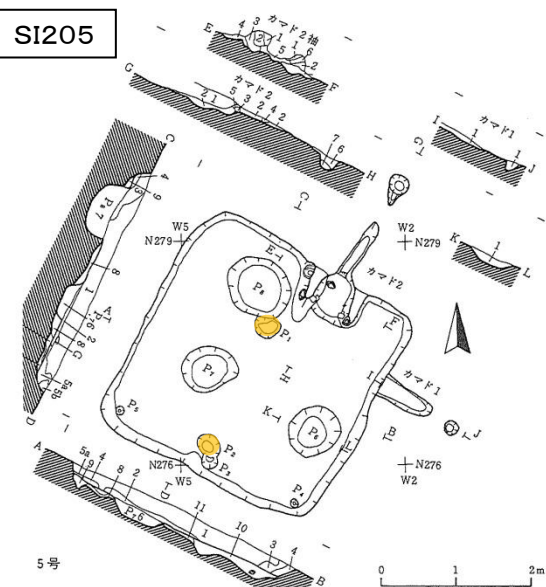


有孔磁石

10号—1 (Eb03 旧)

0 5 10cm

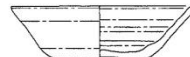
SI205



須恵器坏 (回転ヘラ切り)



須恵器坏 (ヘラケズリ再調整)



あかやき土器坏



須恵器坏 (ヘラケズリ再調整)



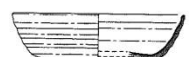
須恵器坏 (回転ヘラ切り後ヘラケズリ再調整)



あかやき土器坏 (回転ヘラ切り)



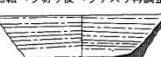
須恵器坏 (回転ヘラ切り後ヘラケズリ再調整)



須恵器坏 (回転糸切り)



あかやき土器坏 (回転ヘラ切り後ヘラケズリ再調整)



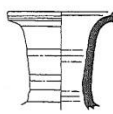
須恵器坏 (回転ヘラ切り)



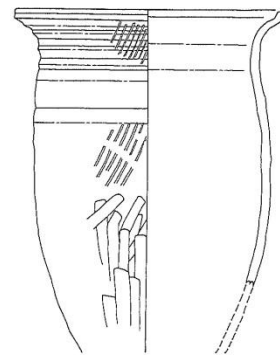
須恵器高台付埴



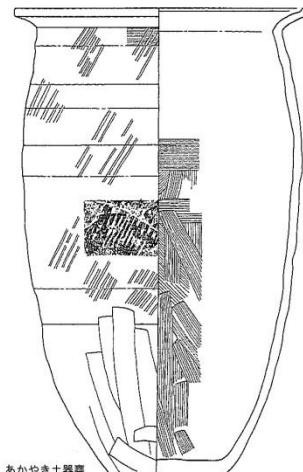
ロクロ土師器坏 (内黒)



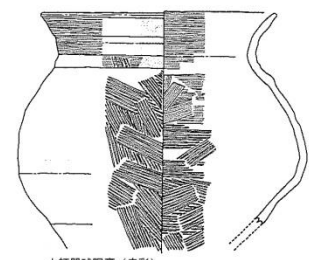
須恵器長頸瓶



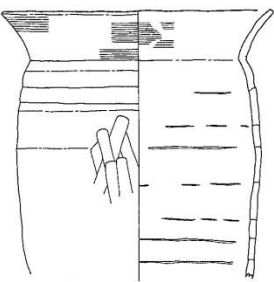
あかやき土器埴



あかやき土器埴



土師器球罎 (赤彩)



土師器埴



土師器球罎 (赤彩)

0 5 10cm

第 318 図 志波城跡 外郭内西辺北部【803~811 年】(4)

SI210・SI205〔第 1・2 次(S51・52), 県教委 1982(第 68 集)〕